

# 個性のスヌメ

2026




慶應義塾大学  
法学部

Keio University  
Faculty of Law

法学を学ぶ。  
慶應義塾で学ぶ。



法学部を支える3つの柱		03
学部長よりメッセージ	亀井 源太郎 先生	04
日吉主任よりメッセージ	鈴木 透 先生	05
学びのステップ		06
<b>法律学科</b>		
教員からのメッセージ	大屋 雄裕 先生	08
学生からのメッセージ	大河原 賛 さん	09
ゼミ・研究会	杉田 貴洋 研究会	10
	漆 さき 研究会	11
	佐伯 昌彦 研究会	11
<b>政治学科</b>		
教員からのメッセージ	小川原 正道 先生	12
学生からのメッセージ	小嶋 健吾 さん	13
ゼミ・研究会	詫摩 佳代 研究会	14
	トーマス・パレット 研究会	15
	森 聡 研究会	15
<b>共通科目</b>		
教員からのメッセージ	常山 菜穂子 先生	16
	大隼 エヴァ 先生	17
人文科学研究会／自然科学研究会	人文科学研究会 浜田 和範 先生	19
<b>法学部の1年生</b>		
1年生からの法律学	武川 幸嗣 先生	20
1年生からの政治学	谷口 尚子 先生	21
新入生に聞きました!		22
現役生からのメッセージ	[法律学科] 大川 光輝 さん	24
	[政治学科] 大竹 莉緒 さん	25
国際交流		26
留学経験者からのメッセージ	杉浦 温斗 さん	28
	石井 優 さん	29
卒業後の進路		30
卒業生からのメッセージ	塩津 マイルス 廣純 さん	32
	新庄 絢 さん	33
	小溝 舞 さん	34
	岡部 真奈 さん	35
大学院への進学		36
法学部の入試制度		38
奨学金制度		39
教員一覧		40



慶應法学部はどのようなところでしょうか。  
学生たちは、凜とした表情でこう答えます。  
自由な環境です。だからこそ責任も感じます。

自由であるということは、  
何を学ぶか、どのように学ぶかを、自ら選び取るということ。  
将来の道がまだはっきりと見えていなくてもかまいません。  
関心のあることに、まずは踏み出してみてください。  
議論を重ね、刺激を受け合うなかで、  
あなた自身の視野は確実に広がっていきます。

法学部には、挑戦できる環境と、多くの機会があります。  
理性と知性を身につけ、自分の頭で考え、行動する。  
その積み重ねが、あなた自身の軸となっていくでしょう。

# 法学部を支える3つの柱

慶應義塾大学法学部は、法律を専門に学ぶ法律学科と、政治を専門に学ぶ政治学科の  
2つの学科にわかれています。

法律と政治はそれぞれ連携して社会を形作っています。

法律学科では法律を中心に政治も学び、政治学科では政治を中心に法律も学びます。  
また、社会のルールを作るには、法律・政治のことだけがわかればよいわけではありません。

歴史などを学ぶ人文科学、科学技術などを理解する自然科学、

そして、世界で活躍するには外国語の習得も必要です。

これらの科目を有機的に結び付けて、法学部では、  
インターナショナルな舞台で活躍できる「スペシャリスト」兼「ジェネラリスト」を育成します。

"Specialist" and "Generalist"



## 学部長よりメッセージ

皆さんは、法学部や法学にどのようなイメージをお持ちでしょうか。分厚い六法全書を隅から隅まで暗記する場所、あるいは、無味乾燥な条文を振りかざして相手を論破する技術を学ぶ場所、そんなふうにいる人もいるのではないのでしょうか。

しかし、法学部での実際の学修は、知識や技術を詰め込むことのみではありません。法学とは、社会で生じる切実な紛争を、理性と論理によって解決へと導くための知恵の集積であり、法学部ではこの知恵の修得を目指すのです。

法学部で学ぶ学問——法律学と政治学——は、社会のあり方そのものと密接に関わっています。法律学や政治学の特徴や相違点をあえて単純化して説明するなら、法律学は、既存のルールとその運用によって社会を形作り下支えしているのに対し、政治学は、ルールを定める手続や望ましいルールのあり方を論ずることで、ルール作りを可能としている、ということとなるでしょう。アプローチの違いこそありますが、法律学も政治学も、社会を形作るルールを取り扱っているのです。

ルールの存在と重要性は、ふだんは多くの人々にとって実感しがたいものでしょう。世の中が平穏であれば、多くの人々は、ルールを意識せずに過ごせるためです。こう考えると、ルールを意識せずに生活できるのは幸せなことといえます。

他方、危機の時代においては、あるいは、新たな問題が次々と生ずる時代においては、ルールの存在と重要性——ひいては法学の存在と重要性——が、広く認識されることとなります。私達は、まさに、そのような時代を生きているのです。社会に対して法学が果たすべき役割はますます大きくなっているのです。

このような時代だからこそ、私は皆さんに、法学部での学びを通じて、表層的な理解やもっともらしい虚偽情報に惑わされない知的な強さを身につけていただきたいと思っています。

三田や日吉のキャンパスには、さまざまな経験をした、さまざまな背景を有する、個性的な仲間がいます。異なる個性との出会いと交流は、あなたの人生を豊かで面白いものにしてくれたり、まったく予想もしていなかった未来へとあなたを導いたりしてくれるはずです。

いま、このパンフレットを手にとっているあなたが、慶應義塾大学のキャンパスで法学を学ぶ輪に加わってくださることを、心よりお待ちしております。

## 知的な強さを身につけよ



法学部長 法学部教授  
亀井 源太郎 先生  
Gentaro KAMEI

## 日吉主任よりメッセージ

1・2年生が過ごす日吉キャンパスにおける法学部教育のまとめ役である日吉主任の鈴木透です。

大学に入るには、いずれかの学部を選ばねばなりませんね。でも、それは、どこかのドアから入ったら、その部屋に閉じこもっていなければならないということではありません。そもそも学問分野の区分は、合理的に説明できるよう、現実の一部を便宜的に切り取っているだけ。学問も、それが対象とする現実世界も、絶対的な境界線などなく、本来はシームレスな連続体です。だから、法学部のドアを開けようとしているみなさん、ドアの向こう側は密閉された部屋ではなくて、壁も敷居もない、無限に広がっている世界なのです。

でも、それは、広大な海にこぎ出すようなもの。私たちの仕事は、みなさんのナビゲーターとなり、これからの航海に必要な装備の調達をお手伝いすることです。

法学部の自慢は、多様なナビゲーターと豊富な装備品。そもそも、法律や政治は、それ自体で完結している世界ではありません。環境汚染を規制しようとしたら、理系の知識が必要ですし、外交に関わろうとすれば、当事国の社会・経済・文化・歴史などに対する幅広い知見が求められるでしょう。法律や政治の分野で活躍したければ、別の領域へと越境していくことが実は不可避なのです。そして、他の領域と接続可能な自分なりのインターフェイスを装備することで、みなさんが個性的な人材へと成長できる可能性は高まります。

法学部のカリキュラムにおいて、法律学・政治学のみならず、人文科学や自然科学、多様な語種を擁する外国語教育なども重視されているのは、このためです。現に、学びの醍醐味の一つは、今まで無関係だと思っていた事象間に意外なつながりが発見できたとき。こんなところでつながっていたのか!という発見の喜びは、多様な世界に越境する冒険をした人だけが味わえる特権です。

法学部では、法律や政治を学びながらどんな世界と自分をリンクできるのか、この冊子ではそのごく一部しか紹介できません。残りは入学後のお楽しみ。みなさんにお会いできるのを楽しみにしています。

# 越境する冒険者たれ



法学部日吉主任 法学部教授  
鈴木透先生  
Toru SUZUKI

# 学びのステップ

## 1、2年 日吉キャンパス

1、2年次から教養科目や外国語だけではなく、専門科目が学べるようになっていきます。履修者の習熟度や経済学・情報処理などの隣接学問にも配慮した科目編成を行っています。また、「演習」も開講されており、少人数での学習を通して、研究やプレゼンテーションの仕方を早くから習得することができます。

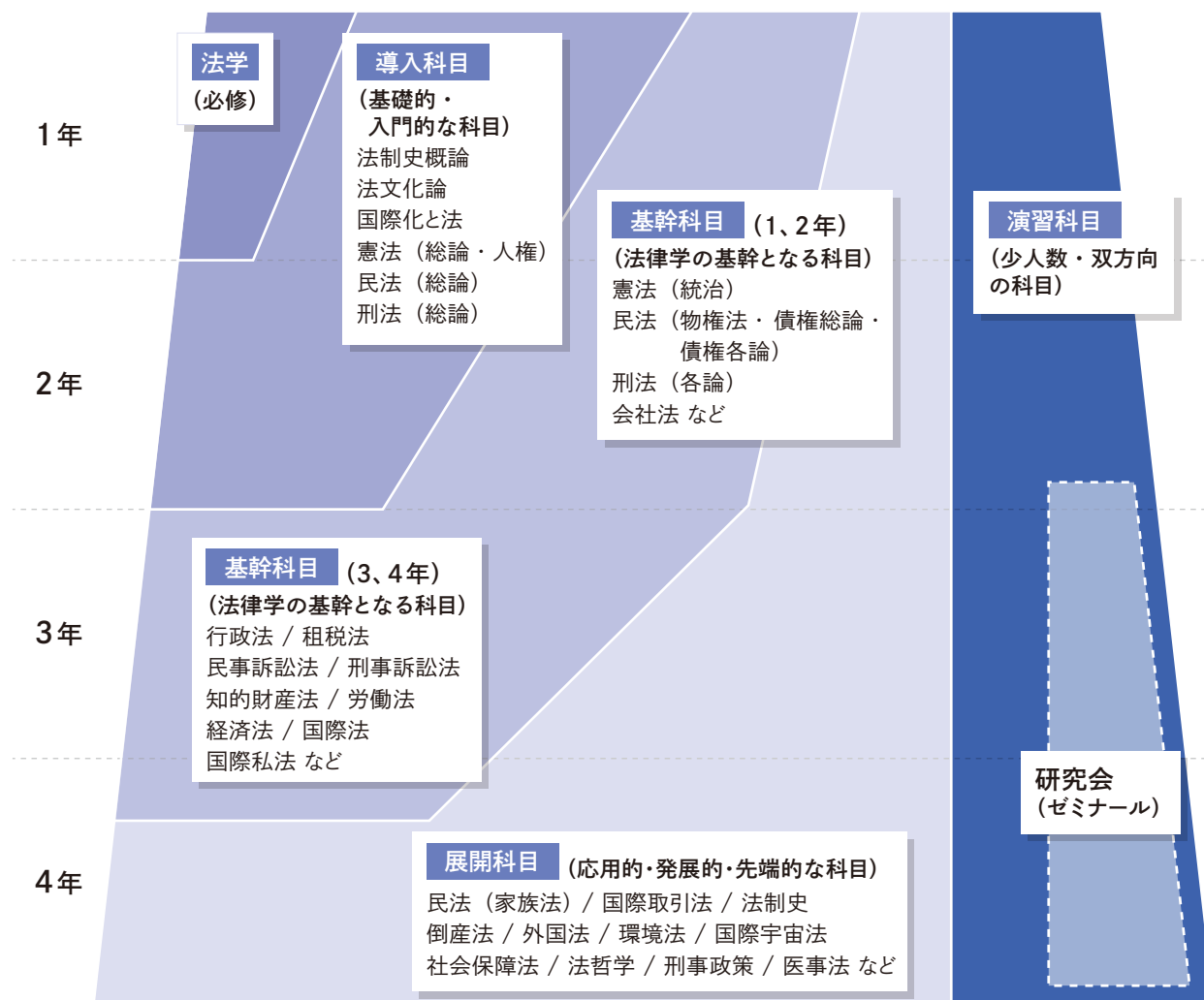
## 3、4年 三田キャンパス

あなたの好奇心を刺激してやまない専門的な授業を用意しています。ここで学んだことは、社会人になっても大きな力となるはず。専門教育の「核」となるのが「研究会」（ゼミナール）。ゼミは自分の興味のある分野を極めるため志を共有する教員と学生が、少人数で、共通文献の講読や議論を通じ、理解を深めていくものです。

多くの研究会では合宿やOB・OG会も盛んで、慶應義塾大学の特色であるヨコとタテの人のつながりも、たいていは、この研究会活動を通じて培われるものです。

## 法律学科

1、2年生で法律学の基礎となる理論や法律をしっかり修得します。  
3、4年生では、より広く、より奥深い法律学の世界が待っています。  
それぞれの興味関心に応じて自分の専門とする法分野を選び、究めていきます。  
指定された専門科目を履修することによって、早期卒業・特別選抜で法科大学院進学を実現できる「法曹コース」が設置されています。



## 政治学科

1、2年生で政治学の基本を学びます。  
3、4年生では、より専門的な内容を学ぶとともに、研究会での文献研究や、仲間や先生との議論を通じて、政治学的思考力を身につけます。

		政治学科目	社会科学科目
1年	演習科目   研究会（ゼミナール）	<b>必修基礎科目</b> 政治理論基礎 政治思想基礎 日本政治基礎 地域研究・比較政治基礎 国際政治基礎	<b>必修科目</b> 社会学 法学、憲法 経済原論
2年		<b>選択・系列科目</b> 【政治思想論】近代政治思想史 / 政治哲学 / 政治理論史 中世政治思想 / 東洋政治思想史 など	<b>選択必修科目</b> 行政法・刑法・ 民法・国際法 経済政策・財政論・ 国際経済論
3年		【政治・社会論】行政学 / 社会階層論 / 社会変動論 マス・コミュニケーション論 / 社会調査論 / 政治過程論 など 【日本政治論】近代日本政治史 / 現代日本政治論 日本外交史 / 日本行政史 など 【地域研究・比較政治論】アフリカ現代史 / 現代中東論 現代中国論 / 中国政治史 / 現代アメリカ論 現代ラテンアメリカ論 / 現代ロシア論 / 現代東南アジア論 比較地域研究論 など	<b>選択科目</b> 社会心理学 / 文化人類学 民法 / 商法 / 労働法 経済法 / 犯罪学 計量経済学 / 経済史 日本経済論 / 金融論 労働経済論 / 社会保障論 など
4年		【国際政治論】 国際政治論 / 安全保障論 / 現代韓国朝鮮論 現代ヨーロッパの国際関係 / 日本外交史 / 西洋外交史 など	

## 共通科目

法学部では、共通科目として、人文科学・自然科学・外国語など幅広い学問領域を学ぶことができるようになっていて、教養人たる「ジェネラリスト」の育成を目標にしています。外国語のカリキュラムには、様々な言語が用意されています。特にインテンシブコースはおすすめです。また副専攻制度も法学部ならではのユニークなプログラムです。3、4年次には人文科学研究会や自然科学研究会が設置されており、1、2年次で集中的に学習してきた人文科学や自然科学の領域を継続して学習し、知見を深められるようになっています。

外国語	<p>学べる言語 英語 / ドイツ語 / フランス語 / 中国語 / 朝鮮語 / スペイン語 / ロシア語 / アラビア語</p> <p>目的や意欲に合わせ、言語、コース・レベルを選択することができます。 〈レギュラーコース〉 週2回の基本コースです。初習言語は、基礎から丁寧に学べます。 〈インテンシブコース〉 集中的に学ぶためのコースです。授業は週4回、時間をかけて丁寧に学びます。少人数クラスで、ネイティブの講師による授業も行われています。</p>
社会科学	<p><b>法律学科</b> 政治学 / 社会学 / 地理学 / 経済学 / 近代思想史 など</p> <p><b>政治学科</b> 法学 / 社会学 / 憲法 / 民法 / 経済原論 / 経済政策 / 財政論 など</p>
人文科学	言語学 / 地域文化論 / 文学 / 歴史 / 科学史 / 論理学 / 倫理学 / 宗教学 / 哲学 / 音楽 / 漢文 / 美術 / 人文科学特論 / 人文科学研究会 など
自然科学	物理学 / 化学 / 生物学 / 基礎数学 / 心理学 / 基礎統計学 / 自然科学特論 / 自然科学研究会 など
数学・統計・情報処理	数学 / 統計学 / 情報処理 / 情報処理特論 / 統計情報処理 など

# Messages from Our Faculty



## いま、ここにはないものへの法哲学

法律学科教授 大屋 雄裕 先生

Takehiro OHYA

法そのものやその正当化根拠について理論的に検討することが法哲学という研究分野の役割です。そのなかでも情報技術の発展が法や政治のシステムにどのような影響をもたらし、我々がそれをどのように理解すべきかを主なテーマにしてきました。近年の焦点になっているのが人工知能（AI）であることは言うまでもありません。

2022年後半から生成系AIが急速な発展を遂げていることは広く認識されているでしょう。当初は画像生成AIが大きな話題を呼んだものの、その時点においては合成される画像の不自然さを楽しむなど興味関心の対象に過ぎませんでした。しかし生成される動画や画像のクオリティは急速に改善され、映画業界などで人間の雇用を脅かす懸念が現実のものになっています。

さらに、23年初頭からはChatGPTなどの対話型AIに注目が集まり、学生にも広く使われることでレポートという大学の古典的な成績評価手法を危機に陥れましたが、実社会ではすでに企画書の作成やプログラミングに広く活用されており、生成系AIを業務プロセスにどのように組み込み全体を効率化するかが議論されている状況です。

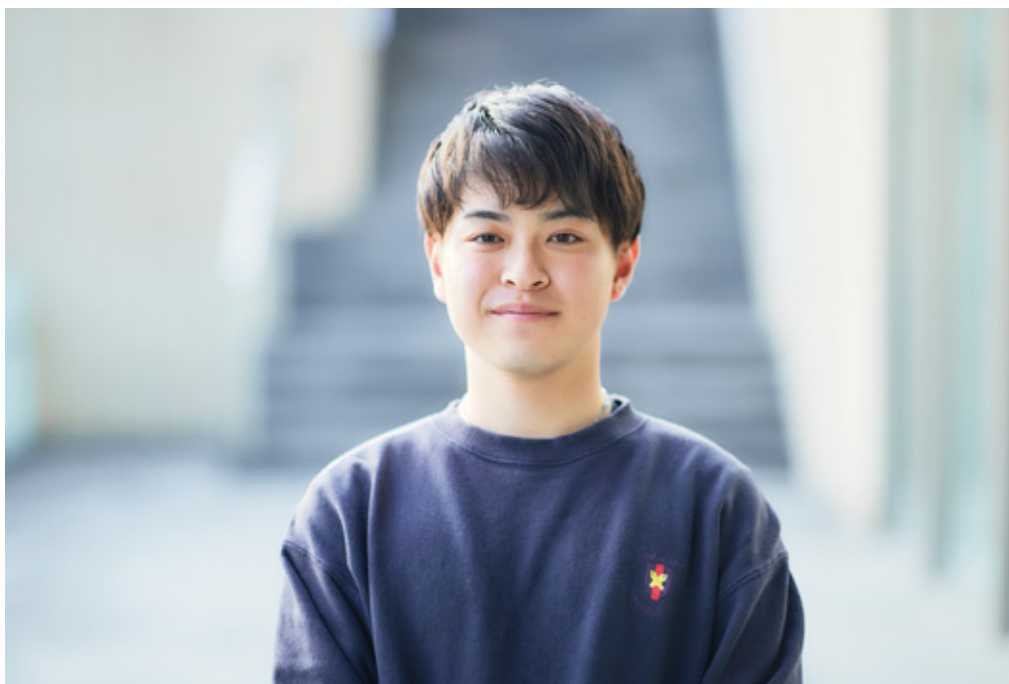
今年に入るとAIエージェントという、単に与えられた指示に

従うだけでなく能動的・自律的に利用者の望んでいる内容を察知し実現するサービスが提唱されるようになりました。冷蔵庫を買いたいと相談すると家の構造や家族構成を確認し、適切なサイズの商品を提案し、値動きを調べていつごろ買うといいですよとアドバイスするようなサービスを目指して、さまざまな企業が実現を競っています。もはや社会全体にとっても我々一人ひとりにとっても、AIを使うかどうかではなくAIとどのように付き合っていくかが問題になっていると言えるでしょう。

このように急速に発展し変化する技術を前に、我々がいかなる倫理を受け入れそれを法として実装すべきかを考えるためには、すでに現実化しているものを前提に議論するのは不十分だということになります。未来に向けた技術変容を見据え、それが社会に及ぼす影響を想定した上であるべきガバナンスのあり方について構想する力が求められるでしょう。技術者・研究者との協働を通じて技術の実態や本質について理解する力も必要になります。

いま、目の前にある状況を超えて技術や変化の本質をつかみ、粘り強い対話を通じて合意を形成し、社会を変えていくこと。それが今後の法哲学と法律学に求められる能力だと考えます。

# Messages from Our Current Students



## 答えが一つではない問いに向き合い続ける

法律学科4年 大河原 賛 さん

Tasuku OHKAWARA

法律に興味を持ったのは中学生の時です。社会の授業で、日本で初めての違憲判決が出た事例を知り、既存の秩序の中で正義を問い直す裁判官の姿勢に強く惹かれました。

大学に入学してから特に印象に残っているのは、基礎法学分野における大屋先生の法哲学の授業です。法律がどのような歴史や思想の積み重ねの上に成り立っているのかを知ること、条文の背後にある価値観や社会背景を考える面白さに気づきました。3年次には大屋ゼミに所属し、法哲学の学びをさらに深めていきました。法哲学を通じて、複数の価値や立場を比較しながら判断する思考力が養われたと感じています。

私は将来、刑事政策や犯罪学に関わる研究や政策立案ができる人間になりたいと考えています。法律や司法の制度が

どのような形であれば犯罪を防ぐことができるのか、また起きたときにどう対処すべきなのか。答えが一つではない問いに向き合うため、学部卒業後はロースクールへ進学し、検察官として実務に携わりながら現場で学びたいと考えています。

私は福島県出身で、一般受験で慶應義塾大学に入学しました。都心の大学には多様な人との出会いがあり、大きな刺激があります。また奨学金を始めとした支援制度も充実しています。ですから地方出身の受験生の皆さんも恐れずに、ぜひ挑戦してほしいと思います。法律学科での学びは、知識を身につけるだけでなく、「社会をどう良くするか」を考え続ける力を育ててくれます。答えのない問いに向き合い続けることが、法律学科最大の魅力だと思います。

### 学生の論文

全国的にも珍しい、学部学生の研究成果を活字化する学術雑誌『法律学研究』。年2回刊行され、毎号、ゼミでの共同研究や個人研究が多数寄せられます。

#### 法律学研究 第74号 学生論文集

- ◎The Crime of Ecocide
- ◎技能実習生を取り巻く日本の制度的課題と展望
- ◎死体遺棄罪に関する一考察
- ◎AIを搭載した自動運転車の事故における民事責任の所在
- ◎犯罪被害者支援に地方公共団体が果たす役割

- ◎日本における教育を受ける権利と社会権規約
- ◎宇宙の持続可能性確保に向けた国内外の動向分析
- ◎自律型致死兵器システムの国際的規制に向けた法的課題の検討
- ◎陸上起因汚染に係るプラスチック汚染規制の課題と将来の展望
- ◎国際仲裁の当事者自治に対する制約について
- ◎ハーグ条約に基づく子の常居所地国への返還





[法律学科]

## ゼミ・研究会

法律学科の多くの先生方は、三田キャンパスで研究会(ゼミ)を開講しています。どんなことを学んでいるのか、いくつかのゼミの様子をご紹介します。



### 杉田 貴洋 研究会 〈商法・会社法〉

Takahiro SUGITA Seminar

商法・会社法を研究対象としています。営利を目的に活動する主体=企業に関わる生活関係を規律するのが、商法・会社法です。会社は、企業の一形態と位置付けられます。複数人が出資をして共同で事業を進める場合には、会社形態が便利です。会社には、株式会社や合同会社など4種類の組織形態があります。会社法は、会社の組織や会社に関わる関係者の利益調整を図るためのルールを定めています。たとえば、株式会社で、①取締役の各別の報酬額決定を代表取締役に一任できるか、②特定の株主と対立した取締役が、その株主に対抗するような新株発行ができるか、というような問題は、それぞれ、①取締役の報酬は定款または株主総会決議で定めるとする会社法の規定、②新株発行は取締役会決議で実施できるとする規定の解釈の問題になります。技術的で細かい問題のようですが、現実の社会では、実績あるワンマン社長の意向に他の取締役が逆らえないとか、経営方針をめぐって大株主と取締役が対立するとかといったかたちで問題が顕在化します。条文を解釈する際には、その条文がどのような理由でそうした規定となっているのか(立法趣旨)に遡って考えることになります。解釈によって条文の意味を明らかにすることで、具体的な紛争に適用できるルールが明確になり、紛争解決につながります。

ゼミでは、商法・会社法分野のさまざまな論点・判例を取り上げて、担当者に報告してもらい、これに基づいて全員参加で議論し、一緒に考えていきます。



# Our Seminars



## 漆 さき 研究会

〈租税法〉

Saki URUSHI Seminar

毎日の買い物のときに目にする消費税や、アルバイト代をもらったときにかかるかどうか気になる所得税など、租税は学生さんにとっても日常生活に深くかかわるものです。租税法は、そのような人々にとって身近な租税のありかたから、国際的大企業が複雑なスキームを駆使して試みる租税回避、なぜ人や企業は国家に租税を納める必要があるのかといった少し哲学的な問いまで、幅広く研究対象とする学問です。学生さんの多様な興味のある方を受け止められる懐の深さが、租税法の魅力の一つだと考えています。

本研究会では、租税法に関する基礎的な文献の講読、判例をベースにした模擬裁判などを行っています。教員がその学期に何を扱うかについて選択肢を提示することももちろんありますが、そのときに所属する学生さんが何に興味を持ち、何をしたいのか、その自主性を大事にしています。教員は、学生が「これが勉強したい」といったときに、それをうまく手助けし、研究の面白さを伝えられる役でありたいと考えています。2025年に始まったばかりの研究会なので、まだ3年生しかいませんが、就職活動で知り合った他大学の租税法研究会の人と合同ゼミの約束を取り付けてくるなど、第一期生から存分に自主性を発揮してくれていると思っています。

研究会の中で、3年生・4年生と一緒に助け合って報告の準備やイベントを行い、勉強面だけでなく信頼しあえる関係を築いてくれること、それが連なって、当研究会が何代にもわたるコミュニティとなっていくことを期待しています。



## 佐伯 昌彦 研究会

〈法社会学〉

Masahiko SAEKI Seminar

法社会学では、まず、法が社会の中で実際にどう作動しているのか、どのような機能を果たしているのかという点に注目します。そのような社会の中での法の作動の在り方を調べるために、法社会学の領域では、社会学、心理学、経済学、文化人類学など、様々な学問分野の知見・方法を参照し、活用しています。なぜ社会の中での法の作動の在り方に注目するのかという点については、研究者によって関心の置き所が違うところもありますが、私自身は、それらの研究を通して、法の意義や限界を踏まえながら、より良い法運用・法制度を考えていくことを重視しています。

このように、法社会学では、法律の仕組みや様々な制度について学習したり、どのような運用や制度が良いのかを規範的に検討したりすることも重要ですが、社会の中での法の作動をいかにして捉えるかという点が、研究の主要な部分を占めています。したがって、社会科学の発想や方法をつかむことが、法社会学を理解するうえで重要になってきます。

ここで、社会科学は、大まかにいえば、理論的背景をもとに現象について考察をし、一定の仮説を引き出す営みと、その仮説を経験的な方法によって検証する営みに分けることができます。本研究会では、理論に関する文献を読み進める年度と、経験的な研究方法に関する文献を読み進める年度とを交互に設定し、社会科学の観点から法を分析する視点の習得を目指して学習をしています。



# Messages from Our Faculty



## 政治思想史から考える「この国のかたち」

政治学科教授 小川原 正道 先生

Masamichi OGAWARA

徳川幕府が終焉を迎えて明治政府が発足し、日本が近代国家を目指しはじめてから、150年以上の時が経ちました。憲法や議会、内閣制度など、現代日本政治の骨格となる要素が、その後、短期間で構想され、実現していくこととなります。「この国のかたち」は、作家の司馬遼太郎がそのエッセイのタイトルとしたものですが、一般に「憲法」と訳される「Constitution」は本来、「構成」や「構造」、「成立」といった意味も持っています。そうした観点から見ると、明治国家の建設は、狭い意味での「憲法」を機軸としながら、国家の構造を練り上げるといふ、統治構造全体のデザイン過程とも言えるでしょう。

政府側で代表的なデザイナーとして手腕をふるったのは、初代内閣総理大臣となった伊藤博文です。伊藤は憲法制定に先駆けて行政機構を整備する必要を感じて内閣制度を導入し、内閣を支える官僚を養成しながら、政府に知的資源を提供すべく大学制度を整備、憲法制定後は帝国議会を開設して、段階的な政党政治の実現を目指しました。民間では、慶應義塾の創始者である福澤諭吉が立憲国家の実現を目指し、イギリスをモデルとした議院内閣制、二大政党制、政党内閣制の導入を提唱して、これらを支える人材を育てる教育

機関として義塾を位置付け、知的サロンとして交詢社を、「不偏不党」の新聞として『時事新報』を、それぞれ設立・運営していきます。

現在、先進国と呼ばれるG7はアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、日本で構成されており、非西洋国は日本だけです。明治から昭和戦前期の近代においても、日本が短期間で文明化を達成し、日露戦争でロシアを破ったことは、世界、特に西洋諸国の植民地の人々に大きな衝撃と夢を与えました。現代でも、こうした国々にとって、明治の国家建設と第二次世界大戦後の経済復興、さらには東日本大震災後の被災地復興などは、非西洋国の国家発展・再建のモデルとして貴重な事例となっており、私のような日本政治思想史研究者も、彼らからの問いや要望に応えなければなりません。

憲法改正というと、日本国憲法第9条の是非などの条文改正にとらわれがちですが、今求められているのは広い意味での「Constitution」、つまり「この国のかたち」をデザインする構想力と実現力ではないでしょうか。政治学はこうした問題を正面から扱う学問であり、歴史的観点から日本政治を分析する我々のような研究者も、学生の皆さんとともにこうした力を鍛錬し、一緒に社会に貢献していきたいと考えています。

# Messages from Our Current Students



## 自分の関心や目標に応じて学びを組み立てられる

政治学科 3年 小嶋 健吾 さん  
Kengo KOJIMA

高校3年の時に簿記を学んだことをきっかけに、企業を数字で読み解く面白さを知り、公認会計士という目標を持つようになりました。同時に、数字の背後には制度や社会の仕組みがあるのではないかと考えるようになりました。

大学進学にあたっては、専門的な会計知識を学ぶ前に、社会の仕組みや考え方の土台を身につけたいと考え、法学部政治学科を選びました。単なる技術としての会計ではなく、その背景にある思想や社会観を学ぶことに意義を感じたこと、そして福澤諭吉先生が日本に初めて複式簿記を導入した人物であると知ったことも、慶應義塾大学を志望した理由の一つです。現在は小川原ゼミで福澤諭吉について研究し、西洋の複式簿記を日本社会に導入しようとした背景に関心を持っています。

政治学科では、社会や制度を「なぜそうなっているのか」という視点から考える機会が多くあります。学びを通して、自分なりの判断軸や、物事を多角的に捉える姿勢が身につけてきました。政治学科の魅力は、進路を早い段階で一つに限定せず、幅広い選択肢を持ったまま学べる点にあると感じています。私自身も政治学を学びながら公認会計士試験に挑戦し、在学中に合格することができました。

卒業後は監査法人への就職が決まっていますが、政治学科で培った思考力や価値観の捉え方は、立場や背景の異なる人と協働する上で大きな支えになると感じています。政治学科での学びは、自分の可能性を広げながら進路を形づくっていくための基盤になっています。

### 学生の論文

全国的にも珍しい、学部学生の研究成果を活化化する学術雑誌『政治学研究』。年2回刊行され、毎号、ゼミでの共同研究や個人研究が多数寄せられます。

#### 政治学研究 第73号 学生論文集

- ◎山鹿素行の『中』と『恆』
- ◎権威主義国による自由な国際秩序の遵守要因
- ◎日仏文化交流雑誌『フランス・ジャポン』の再検討
- ◎国民の望む首相は選出されてきたのか
- ◎民主党の広報戦略の実態
- ◎種の保存法における国会審議と議員の関心
- ◎イタリア・中国間の相互貿易におけるBRI潜在力の実証分析

- ◎カザフスタンにおける民族政策と安定の要因
- ◎学校で排除を経験した子どもはどのようにレジリエンスを獲得するのか
- ◎経済的相互依存と貿易予想理論
- ◎シティズンシップ教育における教育目的の正統性
- ◎外部脅威とクーデターの関係
- ◎近代日本における親鸞思想の展開
- ◎意図せざるエスカレーションのリスク
- ◎イギリス風刺漫画雑誌『パンチ』にみる20世紀前半の日本観

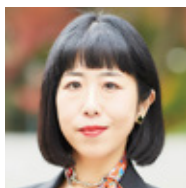




[政治学科]

## ゼミ・研究会

政治学科の多くの先生方は、三田キャンパスで研究会(ゼミ)を開講しています。どんなことを学んでいるのか、いくつかのゼミの様子をご紹介します。



### 詫摩 佳代 研究会 〈グローバルガバナンス〉

Kayo TAKUMA Seminar

私の研究会では、分断が進む国際社会で、感染症や貿易などのグローバル 이슈にどのように取り組むべきかという課題について、文献講読と状況分析、深い議論を通じて迫っています。

国際的な相互依存の高まりにより、気候変動や移民問題、感染症や貿易など地球規模の課題は山積しています。世界政府が存在しない中でも、国際機関や国際協力の枠組みを通じて、あるいは、かつての米国のような、覇権国のリーダーシップを通じて、地球規模課題への力強い取り組みは継続されてきました。しかし現在はどうでしょうか。各国で自国第一主義が高まり、国際協力にネガティブな世論の台頭もあり、多くの国際機関はリストラを余儀なくされ、国際協力を取り巻く状況は明らかに悪化しています。このような厳しい状況の中で、どのようにグローバル 이슈に立ち向かえば良いのか、各方面でどのような試みがなされているのか、日本には何ができるのかなど、様々な方向からグローバルガバナンスの現状を分析し、議論を行なっています。

慶應義塾大学法学部政治学科では、学生たちが3年生と4年生の2年間にわたって一つの研究会に所属し、継続して学ぶことを特徴とします。学生たちは学年を超えて繋がりが深く、私の研究会での学びが、グローバルガバナンスに関する深い知識と思考力を養う上でも、また生涯の仲間を得る上でも役に立てれば幸いです。



# Our Seminars



## トーマス・バレット 研究会 〈近世・近現代中国の歴史〉

Thomas P. BARRETT Seminar

内閣府が2023年に実施した「外交に関する世論調査」によると、中国に「親しみを感じない」または「どちらかという親しみを感じない」と答えた人は86.7%にのぼりました。一衣帯水の隣国である中国に対し、多くの日本人が強い「負のイメージ」を抱いている現状が浮き彫りになっています。

こうした空気の中で、中国を正面から学ぼうとする人は年々減少し、その結果、政治・メディア・教育・ビジネスなど、さまざまな分野で深刻な理解不足が生じています。いま社会で強く求められているのは、感情やイメージに流されず、中国を多面的に理解できる「中国通」の存在です。本研究会は、そうした課題意識のもと、2025年4月から「歴史学のアプローチ」を用いて中国を深く学ぶ場としてスタートしました。

一見すると、歴史学は現代中国の理解とは距離があるように思えるかもしれませんが。

しかし、現代の中国社会や人々の価値観は、長い歴史の中で形づくられてきた文化や制度、記憶と密接につながっています。歴史を学ぶことは、過去を知るだけでなく、現在を読み解き、未来を考えるための基盤を築くことでもあります。

さらに、歴史学で培われる思考力は、中国理解にとどまりません。フェイクニュースや切り抜き動画、生成AIによる情報があふれる現代において、情報の出所を問い、背景を考え、欠けている視点に気づく力は不可欠です。本研究会では、一次史料や専門書の読解、議論、課外活動を通じて、こうした力を身につけ、社会のさまざまな分野で活躍できる「深く考える力をもった人材」を育てていきます。



## 森 聡 研究会 〈現代国際政治〉

Satoru MORI Seminar

いま世界は歴史的な移行期に入ったといわれています。経済的に躍進した中国は、他国に対する経済的威圧に及ぶようになったほか、軍備増強に邁進しています。またロシアは、安全保障上の不安と自らのステータスへの不満を強め、隣国ウクライナを侵略する行為に出ました。そしてアメリカ国内では、コスト度外視で対外政策を推し進めた反動で一国主義が高まり、理念を軽視し力と利益に走りつつあります。これらの国際政治の大きな流れが交錯した結果、アメリカ主導の国際秩序の基調に揺らぎが生じ、それは日本をはじめとする諸国家の対外関係に大きな不確実性をもたらしつつあります。

森研究会では、流動性を増す現代国際政治をどう理解し、その中で日本はどうか生き抜くかというテーマを題材に、国際政治の歴史と理論に学び、複雑な世界の動きを多角的に理解して読み解く能力を養うトレーニングを積んでいます。国際政治は伝統と革新が織り成すものですので、それを理解するためには、歴史を参照するだけでも、理論によって思考をモデル化するだけでも不十分です。そこで当研究会では、この両方から学ぶとともに、第一線の実務家の話などから実践的な学びを得て、研究会メンバーに単に知識を身に付けてもらうだけでなく、国際政治を見抜く《センス》を磨いてもらうことに重きを置いています。物事の本質を見極めるような「問い」を自分で立てて答えを導き、さらにはどのような対応の選択肢があるのかまで考え抜く強い思考力と問題解決能力は、活躍する社会人の素養に直結すると考えています。



# Messages from Our Faculty



## 「海」の先を想像する力

法学部教授 常山 菜穂子 先生

Nahoko TSUNEYAMA

「情報の海」などというお馴染みのフレーズではいまや言い表せないほど、私たちはスマホの画面からあらゆる言葉と画像と映像を手にかけています。インスタ、TikTok、X、Facebook、スレッズ、YouTube、Snapchatのようなソーシャルメディアプラットフォームによってどこからともなく流れてきて瞬時に目の前に現れる無限の世界は、すべてが現実のようでありすべてが夢のようでもあります。デジタル・ネイティブの皆さんは日々、この「海」をスイスイと泳いでいるでしょう。

でも、ここでもう一度、本物の「海」を想像して欲しいのです。いま見ているスマホを持つ手のひらの先へ、部屋の外へ、自分の家の中から町へ、市へ、県境を過ぎて、日本の端の海岸線を通して海を越えて続いていく物理的な広がりを感じを思い描いてみてください。その海の前には実体ある人とモノが存在すること、しかもそれらは常に活動し、変化し、移動し、接触していることを思い出してください。

私の専門はアメリカの演劇文化と演劇史です。演劇を上演したり観たりする行為とは決まった時と場所で共有される体験であり、演劇はある特定の時空間に固定された芸術形態です。

でもそれと同時に、演劇は移動もします。私はまず、17世紀植民地時代に、演劇がイギリスから新大陸へ向かって船で

渡る様子を想像しました。こうして移入された演劇はいかにして受容され、そしていかにアメリカの条件に合わせて独自の私たちへと変容していったのか、大西洋横断的な文化交渉を研究しました。つぎに、ではもう一方の海はどうだったのかなと思って、いまは、アメリカ演劇が太平洋世界へと帝国主義的膨張を展開したテーマを考えています。さらに、反対岸の日本からはどんな演劇がアメリカへ向かって海をわたり、日米の演劇がいかなる接触・交渉したのかに注目しています。

言葉や画像や映像が情報の海を行き交っているように、人とモノも現実の海を越えて移動しています。国家国民、政治経済、歴史文化、思想宗教——すべては一か所に留まることなく、その価値も絶対ではなく流動的で曖昧なのです。

だから、皆さんは手にした情報の先、現実の海の向こうに血が通う人がいて、異言語、異民族、異文化の生活が繰り広げられていることを意識しながら「情報の海」に対峙し、自らも発信していつくれたらと願っています。大学に入ったいろいろな授業を取って、大勢の先生と話してみてください。専門分野の勉強に加え、少しでも興味を持った人文科学や自然科学のクラスに顔を出してみてください。広い基礎知識と深い教養は「海」の先を想像する大きな助けとなるからです。

# Messages from Our Faculty



## メディアを通じた「なるほど」という理解の危うさ

法学部准教授 大隼 エヴァ 先生

Eva OHBAYA

みなさんはニュース、映画など、あらゆるメディアを観て、「なるほど、アラブ世界ってこういう感じか」と思ったことはありませんか。けれど、その“なるほど”は案外あやしい。なぜこの台詞が笑いになるのか、なぜその沈黙が重いのか、なぜ同じ言葉が場面によって温度を変えるのか——そこに社会の仕組みや価値観が、こっそり映り込んでいます。

私の研究は、エジプトを中心に、映画・テレビドラマ・コメディ・ニュース、そして日常の言葉づかいを材料にして、「宗教」と「世俗化（セキュラリズム）」が現実の場でどう折り合いをつけ、どう語り直されてきたのかを追いかけます。たとえば映画や連続ドラマ、風刺コメディは、単なる娯楽ではなく、「言にくいこと」を言葉と笑いで迂回しながら共有する装置でもあります。逆に、検閲や“触れてはいけない線”があるからこそ、作り手は象徴や比喩、視線の動き、沈黙の長さでメッセージを編み込みます。私はそうした細部を拾い上げ、国家の制度、家族、ジェンダー、メディア環境まで含めて、ひとつの出来事がどんな「説明の候補」を生むのかを整理します。

ここで大事なのは、“宗教が強い／弱い”の二択にしないことです。ひとつの視点だけで断言し続けると、世界は簡単

に見えます。でもその代わり、別の可能性を見落とし、議論が信仰告白みたいになってしまう。学問は「いまの最善」を出す営みで、明日には更新される。だから私は、複数の論理を並べ、どれがベターかを根拠で比べる作業を重ねます。

もう一つの柱は翻訳です。アラビア語の宗教的表現を日本語に移すとき、辞書的な意味は合っているも、“敬虔さ”や“距離感”がずれてしまうことがあります。どこで何が落ち、逆に何が足されるのかを分析し、目的（誰に・何のために）に応じた訳し分けの指針を示します。

授業ではアラビア語やアラビア語を話す地域について報道されない面を説明し、研究会などでは、短い場面を止めて分析して、議論しながら解釈を考える。論文も読みますが、「結論を覚える」のではなく、「結論に至る道筋」を点検します。法や政治を学ぶ人にとっても、社会が“どう語られるか”を掴むと、ルールの見え方が立体的になります。

結局、研究の出発点はいつも身近な「なぜ?」です。大学でいろいろ学ぶのは、将来いつ必要になるかわからない“思考の貯金”でもある。映像と言葉から社会を読む練習を通して、みなさん自身の「よりよい説明」を一緒に作っていきましょう。



## [副専攻] 人文科学研究会 / 自然科学研究会

法学部では広範な知識の獲得や教養の育成を目的として、外国語科目、人文科学科目、自然科学科目など多くの科目を設置しています。とはいえ、知識や教養も体系的構築があつてはじめて総合的視野の形成に至ることは言うまでもありません。例えば「地域文化論」がIからIVまでであるといった具合に、知識を積み上げながら体系的に学習できるシステムになっています。

さらに、3・4年次用に「人文科学研究会」「自然科学研究会」を設置し、1・2年次で学習してきた人文科学や自然科学の領域を継続して深められるようにしています。そして、4年間体系的に学習してきた領域について一定の成果をおさめた場合「副専攻」として認定し、卒業時に「法学部副専攻認定証」を授与します。

副専攻認定制度では、既存の学問分野にとらわれない「知」のフィールドを新たに開拓することも奨励しています。上に挙げたモデルにとらわれる必要はなく、例えば人文科学と自然科学の2つの研究会を履修して、人文・自然の両分野にまたがる論文を書くことも可能です。

### 2026年度開講される副専攻のテーマ例(人文科学研究会 / 自然科学研究会)

- ◎アメリカ文化論
- ◎北朝鮮研究
- ◎ルネッサンス
- ◎フランス文学と日本
- ◎アラブの声:メディアを通じて
- ◎アメリカの音楽文化
- ◎アメリカの文化と社会
- ◎日本の思想と文化
- ◎ことばの分析 — 発見の喜びを求めて
- ◎ロシアおよび関連地域の文化と社会
- ◎フィルム・スタディーズ — 現代アジア映画編
- ◎「周縁」から見る中国
- ◎パフォーマンス・アーツ研究
- ◎イギリス文化・社会とメディア
- ◎Société française
- ◎世界の文学を読む
- ◎近現代イギリスの文化と社会
- ◎ラテンアメリカの文化と社会
- ◎環境史からみる人間と自然の関係
- ◎生命科学にかかわる諸問題
- ◎身の回りの科学研究(物理学)

### 「副専攻」認定の一例:生物学

- 1・2年次 【実験科目(必修)】  
 生物学I・II(各半期3単位、合計6単位)  
 【自然科学科目】  
 心理学I・II(各半期2単位、合計4単位)、  
 自然科学総合講座I(半期2単位)、他
- 3・4年次  
 自然科学研究会III・IV[生物学]  
 (各半期2単位、合計4単位)、他+卒業研究  
 → 合計16単位以上

## 人文科学研究会



浜田 和範 先生  
Kazunori HAMADA

### ことばを通じて他者に触れ、他者を伝える ——世界の文学を読む

この研究会では、いわゆる〈欧米〉ではない場所に根差した文芸作品を読み、論じます。理論や統計からは必ずしも見えてこない風景や情動や思考が具体的に生きられる言語芸術という媒体を通じて、異邦の人々に思いがけぬ近さを覚えもするでしょう。逆に、きわめて身近なはずの存在が相対化され、見知らぬ他者のように立ち現れるかもしれません。作品と向き合う体験の生々しさを重んじつつも、最終的にはそれを、感想を超えた知的営為である論文へと昇華し、新たな他者へと伝えることを目指します。

履修者の興味関心は実に多種多様です。「好きな作家イチ推しのカルト小説」「ニュースで話題になったあのノーベル賞作家をぜひこの機会に」「今度この国に旅行するので」といった動機を起点に、履修者たちは思いもよらぬ地域の作品を自分で選び抜き、報告と討議を重ねながら理解を深め知的刺激を分かち合っています。

〈世界〉なることばが喚起するその途方もない広がり、戸惑いつつもどこか惹かれる人たちとお会いできますよう。



政治学科 3年  
川田 湖雪 さん  
Koyuki KAWATA

### 未知なる世界と出会い、好奇心を耕す

〈欧米〉という枠組みの彼方、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ、東欧……そこには広大で未知なる文学の海が広がっています。浜田和範先生指導の人文科学研究会は、そんな地域の作品であればどんな文献でも自由に研究できる、極めて開かれた場です。

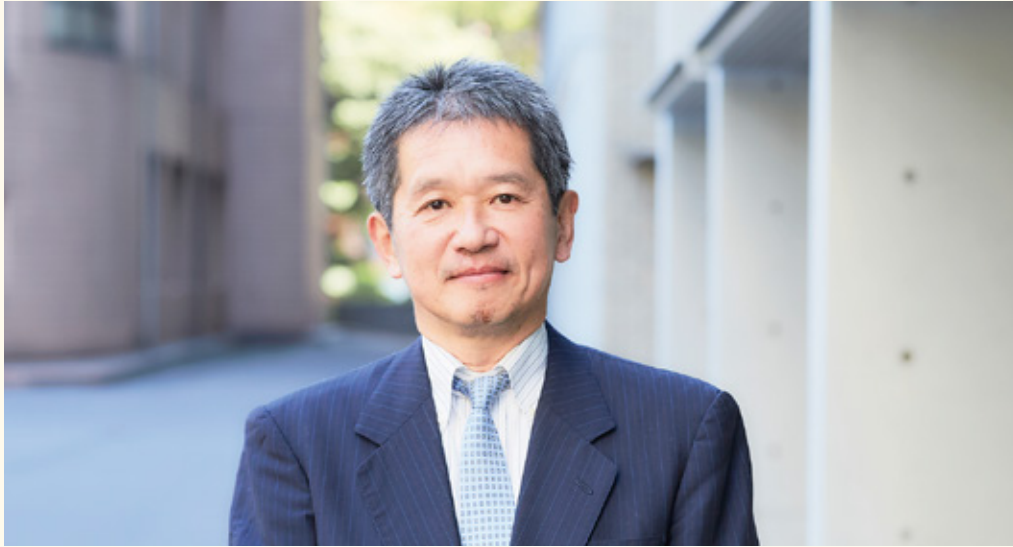
春学期には〈独裁を読む〉というテーマの下、ベラルーシやコロンビアの小説を講読し、息苦しくも魅力的な作品の世界に没頭しました。

このゼミの真の魅力は、その学術的な贅沢さにあります。学生が選ぶあらゆる作品に対し、浜田先生ご自身が学生以上の熱量と鋭い洞察力で向き合い、共に探究して下さります。

慶應義塾大学法学部における副専攻として、世界の文学を研究してみませんか。既存の尺度を離れ、未知の世界と出会うこの経験は、あなたの好奇心をより豊かに耕す最良の選択となるはずです。



# Messages from Our Faculty



## 法律学は「誰でも分かる」、さらに「考えるほど面白くなる」

法律学科教授（民法）武川 幸嗣 先生

Koji MUKAWA

法学部法律学科に入学する皆さんの中には、弁護士や裁判官などプロの法律家を志して意気揚々と門を叩く方もいれば、将来のことは未だ決めずに柔軟に対応しようと思っている方もいることでしょう。どちらであっても、初めて本格的に法律学に接するという方が多いと思います。私自身も入学するまで六法全書を開いたことがなく、法律学に対する適性の有無も分からずに、入学当初は期待と不安が交錯していました。そんな当時を述懐しながら、これから法律学に取り組む皆さんにささやかなメッセージを送ります。

第一に、一口に法律といってもその数は大変多く2000を超えるといわれます。憲法や刑法は皆さんご存知と思いますが、他にも、取引や相続など財産上の権利義務に関する基本法である民法、企業組織・活動を規律する会社法、訴訟手続を定める民事訴訟法・刑事訴訟法、条約など国家間の取り決めや国境を超える取引・婚姻を規律する国際法分野、著作権法や特許法などの知的財産法分野、さらには法律の基礎・背景にある理念・歴史・社会を探究・分析する法史学・法哲学・法社会学などがあり、実に多様です。その中に必ず、自身の興味を引く法律または法分野があるはずで、「法律なんて堅苦しくて面白くなさそう」と早々に割り切ることなく、幅広い視野に立って学びましょう。

第二に、司法試験は難関というイメージが先行するせいか、「法律は難しい」と腰が引けている方が少なくないのではないのでしょうか。確かに、六法全書を開いて多くの条文を目にすると思わずうんざりするかもしれませんが、法律はすべての国民に等しく

適用されるルールであって、決して一部の専門家だけのものではありません。一気に把握しようとせず、各制度について順次理解を積み重ねていけば、実は分かりやすいものです。分かる面白くなってさらに知りたくなります。これがとても大切です。

第三に、「法律学は暗記科目」と思っている方が多いかもしれません。確かに覚えなければならない知識は少なくありませんが、それは他の学問分野も同じです。単に条文を覚えるのではなく、どういう意味なのか、何のためにその条文があるのかについて適切に理解した上で、社会に生起するさまざまな問題解決に資するような運用を考えなければ、どれだけ暗記しても「使えない知識」に過ぎません。法律は無味乾燥な道具ではなく、人々の活動や社会の中で息づく「活きたルール」なのです。世の中には条文を機械的にあてはめるだけでは解決に至らない問題が多く、解釈・運用に関する応用的思考が絶えず求められています。

最後に補足すると、興味をもつことが大切だからといって、面白そうな法律だけをつまみ食いしないよう留意しましょう。例えば、企業の合併・知的財産の保護・AIの活動などは重要な先端分野ですが、応用分野でもあるため、その前に個人の財産・活動に関する基本的な法律をきちんと学習しておく必要があります。法律学は基本→応用分野へと体系的に学ぶべき学問なのです。

一人でも多くの方に、ぜひとも法律学の醍醐味を味わっていただきたいと切に願っています。

# Messages from Our Faculty



## 「いかにして民主主義社会をつくり・守り・改善するか?」を探求しよう

政治学科教授（政治理論・政治社会） 谷口 尚子 先生  
Naoko TANIGUCHI

「みんなが政治的決定に関わることのできる『民主主義』は素晴らしい」—— 学校ではそんな風に習ってきたのではないのでしょうか。しかし実は、民主主義ならば自動的に良い結果が生まれる、という保証はありません。民主主義が適切に機能するかどうかは、主権者である「私たち」の考えや振る舞いにかかっているといます。

主権者自身が政治的決定を行うことを「直接民主制」といい、地域自治や国民投票にその要素を見ることができます。しかし現代は国や自治体の人口が多いため、主権者が選挙で代表者を選んで政治的決定を委任する「間接民主制」が、幅広く見られます。

この間接民主制のあり方に関して、「本人（プリンシパル）—— 代理人（エージェント）」理論というものがあります。民主政における「本人」とは私たち主権者であり、「代理人」とは本人の利益を実現するために選ばれた政治家や政党と考えます。つまり、私たちこそが民主主義社会の主人公であり、政治家・政党という「ポケモン」を育てる「トレーナー」なのです。自分達がまず優れたトレーナーにならなければ、良いポケモンも育たないといえます。

とはいえ、例えば日本でも、代表を選ぶ選挙の投票率が低かったり、真偽の定かでない政治情報についてインターネットで混乱が生じたり…ということがありますね。また、貧富の格差、地域間の格差、男女間格差、国際関係・安全保障、

あるいは人種・宗教・環境などの様々な問題を巡って、意見や利害の対立もあります。政治的無関心や不信、世論対立は、今や民主主義国家共通の課題です。民主主義社会では、多様な意見や利害を選挙・政党制・議会政治などの制度や仕組みを通じて集約し、法を作っていきます。民主政をうまく機能させるには、こうした制度や仕組みが適切であることも重要です。したがって政治学を学ぶことは、いかにして優れたポケモン・トレーナーになるかだけでなく、そのゲームについてのルール（制度や仕組み）をいかに適切に作り、守り、改善するかを探求することともいえるでしょう。

慶應義塾大学法学部政治学科には、①政治思想、②政治理論・政治社会、③日本政治、④地域研究・比較政治、⑤国際政治という5つの分野について、基礎から応用に及ぶ80以上の科目があります。また、演習や特殊研究、研究会（ゼミ）などの少人数授業も数多く設置されています。福澤諭吉の「半学半教」の精神に基づく教員や仲間との議論、また「人間交際（じんかんこうさい）」の経験は、皆さんの一生の財産となるでしょう。そして、大学院の修士・博士課程に進学し、政治・行政・社会・国際関係・アカデミアの世界で活躍する専門人材も数多くいます。包括的かつ大規模な政治学教育を行う国内随一の機関といえる本学科で、皆さんが思う存分学んで社会に飛び立っていくのを、教職員一同、心より応援しています。

慶應義塾大学ってどんなところ？

# ＼新入生に聞きました！／



高校時代までのこと、慶應義塾大学法学部を選んだ理由を教えてください

北村● 高校までは英語を中心に勉強していましたが、高校3年生のときに政治経済の授業で冤罪について調べたことをきっかけに、法律や社会の仕組みに興味を持つようになり、法学部を志望しました。

玉城● 僕は沖縄県出身で、高校2年までは部活ではサッカーに打ち込んでいて、3年生から受験勉強に集中しました。弁護士に関心があり、法学部を選びました。

臼田● 私は福岡出身です。私の通っていた高校では、探究学習やグローバルのコースがあり、2年生の時に、スウェー

デンへ1年間留学しました。そこで政治や教育について興味を持つようになり、法学部政治学科を選びました。

大学生活はいかがですか？

北村● 大学生はもっと時間に余裕があると思っていましたが、実際は1限からしっかり授業があり、課外活動、アルバイトなどで毎日があっという間に過ぎていきます。ただ高校までと違って時間の使い方が自由です。さぼろうと思えばいくらでもさぼれます。なので、自分で自分のことを決めなくてはいけないという責任も感じています。

課外では、ボーイスカウトの活動を、小学校2年生から続けています。今では小学生や中学生のサポートをしています。

玉城● 沖縄では家族とにぎやかな生活を過ごしていたので、一人暮らしを始めたときは、正直とても寂しかったです（もちろん入学してまもなく1年になる現在では問題ありません・笑）。授業もたくさんあり、課外活動もやっていると本当に時間が足りないのですが、その分とても充実しています。

大学に入って良かったと思うことのひとつは、様々な人との出会いです。大学内だけでなく、社会に出て起業をして



世界に目を向けて  
子どもたちの  
教育制度に関心を  
持っていきたい

政治学科 1年  
臼田 樹乃香 さん  
Kinoka USUDA

# Interview with Our First-Year Students

いる人との出会いなどは、自分にはとても新鮮です。

サークルは、慶應エルレイナというフットサルのサークルに入っています(2026年4月から体育会になります!)。レベルも高くとても楽しいです。沖縄県にいたときには対戦できなかった強豪校の人や全国に出場した人もいて、刺激になっています。

臼田●最初は環境の変化に戸惑いましたが、今は大学生活のリズムにも慣れてきました。授業の内容が社会と直結していると感じる場面が多く、自分の興味があることを学ぶのは、とても楽しいです。

語学はインテンシブで英語を履修しています。インテンシブは週4回も授業がかなり大変なのですが、でも少人数で受けられるのが魅力です。

サークルは入学当初3つ入ったのですが、いまは1つだけ、アイセック(AIESEC)で活動しています。アイセックは、世界126の国と地域、国内25の大学支部で活動する世界最大の学生団体で、主に海外インターンシップの運営を行っています。

先日まで代表選挙活動をしていたのですが、2年生の4月から代表をやらせていただくことになりました。アイセックの活動はますます忙しくなりそうですが、勉強がおろそかにならないように、気を引き締めているところです。

## これから大学生活で 挑戦したいことを教えてください

北村●まだ将来の進路は決められていませんが、まずは英語の勉強をがんばって、使う機会を増やしたいです。

それから法学部では、法学系の科目だけでなく、共通科目として、人文科学や自然科学を履修することができます。私は世界史の授業をとっているのですが、法律とはまた異なる分野でとても面白いです。定まっていなくても他の勉強もできることが、法学部の魅力だと思います。



他分野の学問も  
広い視野を持って  
学んでいきたい

法律学科1年  
北村 莉央さん  
Rio KITAMURA

玉城●自分は弁護士になるのが第一目標なので、法曹コースを履修することも考えています。社会がどんどん変わっていくとしても、法律は無くならないと思います。そこに魅力を感じています。弁護士になるための勉強と他の活動の両立は大変なこともあると思いますが、時間の管理をしっかりやって挑戦したいです。



サークル活動も、  
弁護士になるための  
勉強も全力で

法律学科1年  
玉城 隼之介さん  
Shunosuke TAMASHIRO

## 高校生に向けて

臼田●入学した当時、まわりが皆すごい人に見えて最初は臆していました。

でもレベルの高い環境に飛び込んでいくと自分のレベルも上がっていきます。ですから、妥協しないで挑戦した方がいいし、やりたいと思ったことには飛び込んでいくべきだと思います。大変だと思ったことでもそれは自分が成長できるということ。

受験勉強は大変だと思いますが、その先に自分の成長と楽しい未来が待っています。がんばってください!



# Messages from Our Current Students



## 自分次第で学びを深め、 将来につなげていくことができる

法律学科4年 大川 光輝 さん

Mitsuki OKAWA

大学生生活を振り返ると、自由度の高い環境の中で、自分の関心や将来像を試行錯誤しながら形にしてきた4年間だったと感じています。進学のかっけは、高校時代に裁判を傍聴した経験でした。法廷で交わされる弁護士と検察の論理的な議論に強い魅力を感じ、「法を通じて社会を考える力を身につけたい」と思い、法学部を志しました。

入学後は、法律の基礎を丁寧に学びながら、自分の可能性を広げる経験にも挑戦しました。3年次から約1年半、ベンチャーキャピタルで長期インターンに取り組み、起業家と

1年半、様々な経験をさせていただいた  
インターン先と社長



投資家をつなぐイベントの企画・運営や、投資判断のための企業分析、営業やバックオフィス業務まで幅広く経験しました。学生でありながら大きな裁量を任される環境で働いたことで、成果に対する責任や、社会の中で価値を生み出す意識が大きくなったと感じています。

3年からは、前田美千代先生の国際比較法ゼミに所属し、1年目は「忘れられる権利」をテーマに、各国の法制度を比較研究しました。インターネット社会における個人の権利保護という現代的な課題を通じて、法と社会の関係を多角的に考える視点を養うことができました。2年目の現在は独占禁止法を扱い、日米のフランチャイズ契約を比較しながら、契約自由と弱者保護のバランスについて研究しています。

また、高校時代から続けてきたフェンシングには、大学でも学生コーチとして関わり、学業やインターンと両立してきました。異なる分野に挑戦し続けられたのは、自分の選択を尊重してくれる法学部の学びの環境があったからこそだと思います。法学部は、自分次第で学びを深め、将来につなげていける場所です。

# Messages from Our Current Students



## 仲間たちから刺激を受け、 挑戦したいと思えた大学生活

政治学科 4年 大竹 莉緒 さん  
Rio OHTAKE

私は高校時代から、法律や政治に興味がありました。両親が普段から選挙に行く家庭だったこともあり、社会の仕組みについて考えることが自然と身近にあったように思います。進路を考える中で、法律と政治の両方を学べる学部は意外と少なく、その点で慶應義塾大学法学部政治学科はとても魅力的でした。

福島県出身で、大学進学を機に上京し、一人暮らしを始めました。最初は、電車が数分おきに来ることや、周囲の学生の雰囲気や圧倒されました。みんながとても優秀で、正直気後れしたのを覚えています。でも、その環境に刺激を受けて、「自分も何かに挑戦してみたい」と思うようになりました。

大学生活の中で特に力を入れていたのが、法学部のサークル「律法会」での活動です。約400人が所属するサークルで、私は役員としてイベント企画を担当していました。勉強会や合宿、交流イベントなどを通して、同じ目標を持つ仲間同士がつながる場を作ることにやりがいを感じていました。

ゼミは、日本政治や地方政治を専門とする松浦淳介研究会を選びました。3年次には、地方議員の不祥事と投票行動の

ゼミで行われた講演会の様子



地方創生インターンシップに参加した際の様子

関係を分析しました。4年次は、福島県出身である自分の経験を踏まえ、復興庁から防災庁設置へとつながる政策の流れをテーマに研究しています。

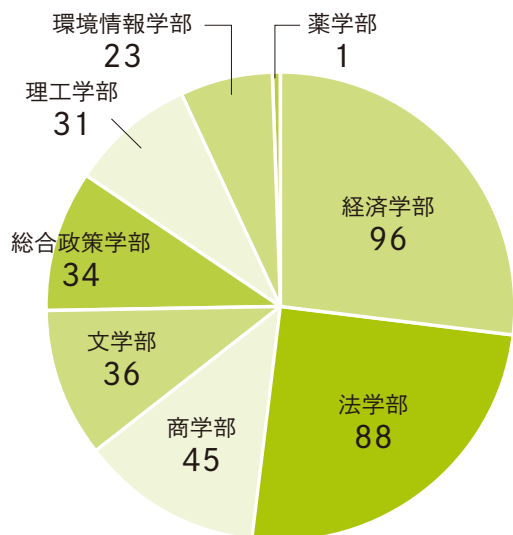
卒業後は信託銀行に就職する予定です。人の人生に長く寄り添い、信頼関係を築いていける仕事に魅力を感じました。大学で多くの人と出会い、関わってきた経験が、この選択につながっていると思います。

法学部は自由度が高く、自分次第で学びや挑戦を広げられる環境です。周囲には常に刺激をくれる仲間がいて、不安があっても一歩踏み出せる場所だと感じています。

# 国際交流

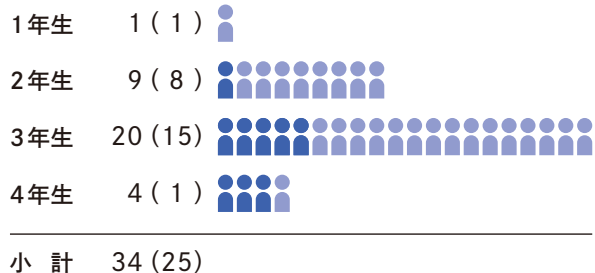
法学部は、慶應義塾大学における在学期間への留学期間の算入、海外の大学で履修した単位の認定など、世界に羽ばたくみなさんを制度の面でも応援しています。

## 派遣留学データ

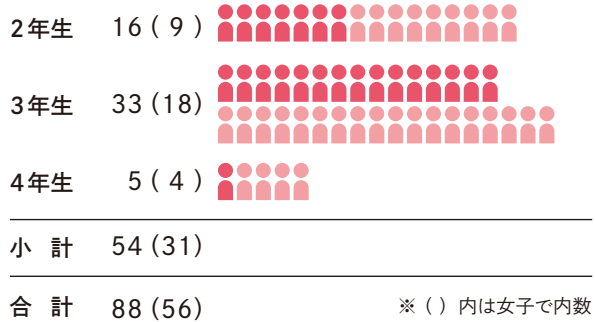


## 派遣留学者数 [2025年5月1日現在。交換・私費を含む]

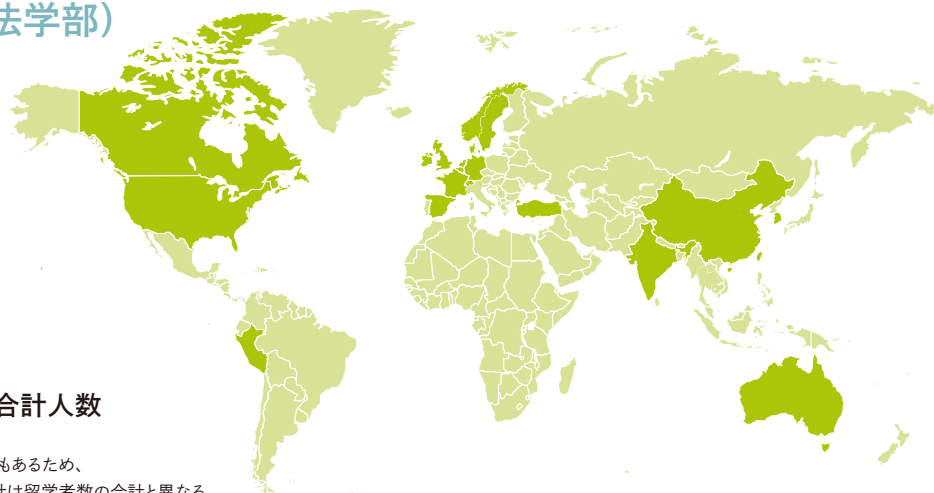
### 法律学科



### 政治学科



## 派遣留学先 (法学部)



### 国・地域別全学年合計人数

(2025年5月1日現在数)

※ 2カ国に留学するプログラムもあるため、  
国・地域別留学者数の合計は留学者数の合計と異なる。

米国	17	スイス	6	シンガポール	2	スウェーデン	1
フランス	13	オーストラリア	5	スペイン	2	台湾	1
英国	7	オランダ	5	ノルウェー	2	デンマーク	1
中国	7	韓国	5	アイルランド	1	ベルギー	1
カナダ	6	ドイツ	5	インド	1	ペルー	1
						計	89

## 夏休みや春休みを利用したプログラム(2025年度)

	プログラム	国名・地域名	定員(人)	法学部 参加者数(人)
夏季	ウィリアム・アンド・メアリー大学	アメリカ ウィリアムズバーグ / ワシントンD.C.	25~30	9
	ケンブリッジ大学 ダウニング・コレッジ	イギリス ケンブリッジ	45~62	12
春季	パリ政治学院	フランス パリ	18~30	17
	エセックス大学	イギリス エセックス州 コルチェスター	10~18	3

## 留学のてびき

### 留学には形態があるの？

留学の形態は、(1) 外国語の習熟を主な目的とする語学研修、(2) 在学中に海外の大学などの高等教育機関で自分の専門分野や関心分野についての授業を履修することを目的とするもの、(3) 外国の大学での学位取得を目的とするもの、に大別できます。通常、(1) の語学研修は「留学」と認められず、慶應義塾大学を「休学」して留学することになりますが、(2) と (3) の場合は「留学」と認められる場合が多く、在学期間に算入できます。

### 語学力は？

米国やカナダの大学・大学院の学位課程に入学を希望する場合、次の学力テストスコアの提出が求められることがあります。

- ① SAT (Scholastic Assessment Test)
- ② GRE (General Record Examination)
- ③ GMAT (Graduate Management Admission Test)
- ④ LSAT (Law School Admission Test)

また、TOEFLやIELTSは英語を母語としない人が対象の英語力判定試験です。これらは慶應義塾大学の交換留学出願の際にも要求されることがあります。

### 派遣交換留学制度ってどんなもの？

慶應義塾大学は、海外のさまざまな大学に交換留学生を1学年間派遣しています。この制度は、慶應義塾大学と協定大学が双方の学生に外国での大学生活を体験する機会を提供することにより、学生の国際感覚の育成と視野の拡大を目指すものです。

### 留学費用はどうなるの？

派遣交換留学の場合、学費は慶應義塾大学に納め、派遣先の大学での学費は免除になります。また、慶應義塾大学や派遣先の大学、日本学生支援機構(JASSO)の奨学金が支給される場合もあります。

### 短期海外研修プログラムってなに？


短期プログラムでは各大学の学生との交流、さまざまな講義、フィールドワークやグループワークなどを通して学びます。知識を広げ、学問を通じた交流を行う絶好の機会となり、また授業単位の認定がされるプログラムもあります。



# Messages from Our Students who Studied Abroad



## 留学という選択 行動することで見えてくるものがある

 フランス エセック経済商科大学院大学  
法律学科 4年 杉浦 温斗 さん  
Haruto SUGIURA

私は、大学に入る時点で将来やりたいことが明確に決まっていたわけではありません。ただ、何を選ぶにしても「選択肢を増やせる環境に身を置きたい」と考えていました。進路が固まっていなくても、自分で考え、動く余地があること。その自由さに魅力を感じて、法学部進学を決めました。

大学生活を送る中で、周囲には早くから目標を定め、就職活動を進めていく学生も多くいました。そうした中で、私は

4年生で留学という選択をしました。皆が次の進路を決めていく時期に海外へ行くことに、不安がなかったわけではありませんが、やはり大学在学中に挑戦したいと考えました。

留学先では、語学だけでなく、ビジネスやデザインの考え方を実践的に学びました。製品やサービスをどのように形にし、価値として届けるのかを、グループワークやディスカッションを通じて考える日々でした。フランス語や英語でのコミュニケーションは簡単ではありませんでしたが、完璧でなくても自分の意見を伝えることの大切さを実感しました。

留学中も、米国で開催される就職イベント「ポストンキャリアフォーラム」に参加して、就職活動を進めていました。海外で学ぶ時間と将来について考える時間を切り分けながら、自分のペースで進路と向き合えたことは大きな経験でした。

いまは単位もすべて取得できているので、これまでの大学生活を振り返りながら卒業を迎えようとしています。最初から答えを持っていなくても、行動することで見えてくるものがあります。大学は、その挑戦を受け止め、後押ししてくれる場所だと感じています。




留学中はヨーロッパ各国を巡り、語学とともに多角的な視点を育みました

# Messages from Our Students who Studied Abroad



## 留学経験からの学び 立場や背景の異なる人たちをつなぐ役割を担いたい

 アメリカ カリフォルニア大学  
政治学科 4年 石井 優 さん  
Yu ISHII

高校1年生のとき、学年代表としてカナダ・トロントに1か月間の短期留学に参加しました。そこで出会った現地の学生たちが、社会のことを自分ごととして捉え主体的に行動している姿に強い衝撃を受けました。この経験をきっかけに、日本における外国人労働者の子どもたちの教育支援に関心を持ち、高校時代には仲間とともにオンラインで日本語や受験勉強を教える学習支援活動に取り組みました。

大学進学にあたっては、政治を学びながら留学にも挑戦できる環境を重視し、政治学科で制度や社会の仕組みを学びつつ、幅広い大学と協定を結んでいる点に魅力を感じ、法学部を志望しました。

入学後は、国際系のサークルの、国際関係会 Keio-IIRや、学生団体 S.A.L. に所属し、2年次にはアメリカの大学へ留学しました。自然に囲まれた環境の中で、授業だけでなく日常のすべてが学びの連続でした。特に印象的だったのは、授業で強く求められる主体性です。発言しなければ存在していないのと同じ、という空気の中で、自分の意見を言葉にする力の不足を痛感しました。一方で、学びと私生活を切り替

キャンパスから海へ歩いて行ける自然豊かな環境。  
週に一度、授業前の朝にサーフィンを  
楽しみました



えながら成果を出す学生たちの姿にも刺激を受けました。

留学中には、移民支援施設でのボランティア活動に参加して、移民受け入れ現場の最前線を体験することができました。こうした経験を通して、立場や背景の異なる人たちをつなぐ役割を担いたいと考えるようになりました。卒業後は金融機関で働きながら自分にできることの幅を広げ、社会と人を結ぶ存在として貢献していきたいと思っています。

大学4年間はあっという間です。ぜひ躊躇せずにやりたいことに挑戦して、時間を大切に楽しんでください！

# 卒業後の進路

法学部の卒業生は様々な分野で活躍しています。学生時代に徹底的に学んだ経験と大きく広げた視野は、自らの将来の選択肢を多く持つことにつながっています。

## 慶應義塾のサポート体制

就職に向けた活動は一般的には大学3年生の春ごろから始まります。就職活動は、自分自身を見つめながら将来を見据える貴重な機会です。独立自尊の気風が就職活動にも表れ、慶應義塾は「最も就職に強い大学」のひとつと言われるほど、毎年高い実績を残しています。大学では主に就職・進路支援担当が下記を中心にサポートを行っています。

### 就職・進路相談

各キャンパス就職・進路担当部署が、就職・進路全般に関する相談に応じています。

三田学生部就職・進路支援担当では、履歴書・エントリーシートの添削や模擬面接などにも対応しています。

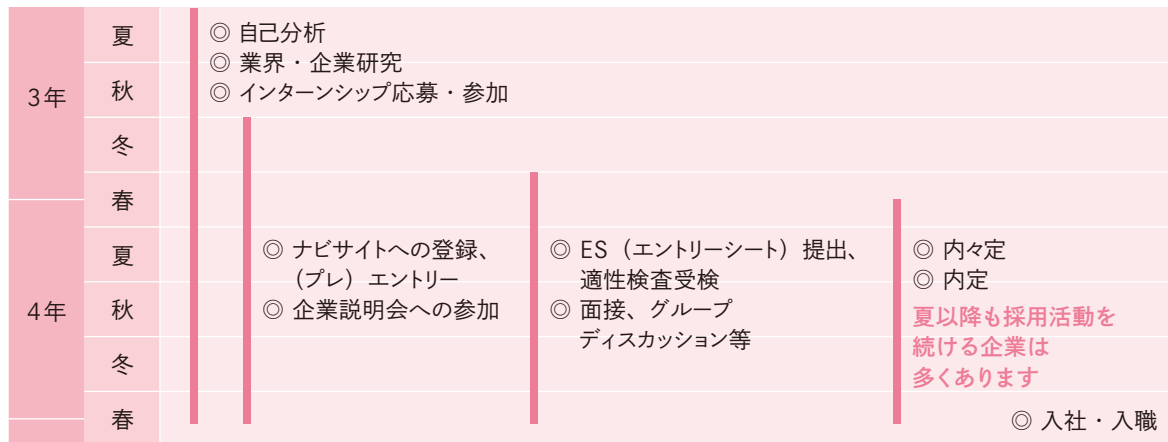
### 情報提供

学内ポータルサイトでは、企業から届く求人票や企業説明会案内、先輩たちによる就職活動体験記など、多数の情報を閲覧することができます。また、OB・OG訪問のための卒業生へのコンタクト先を学内の専用システムで検索することも可能です。いずれも塾ならではの貴重な情報です。

### 就職・進路セミナー・講座

就職活動や進路選択の上でおさえておきたい入門編をはじめ、就職活動の進め方、応募書類の書き方、面接対策、内定者（4年生）による座談会や専門家による各種講演など複数のセミナーを開催しています。

## 就職活動の流れ(一例)



## キーワード解説

### インターンシップ

学生が企業・団体の現場で実際に就業体験を行ない、社員からの指導やフィードバックを受けることで自らの能力を見極め、企業理解を深めること。現在、多くの企業や官公庁で実施されている。夏休み、冬休み、春休みなど、授業に重ならない時期に設定されるのが日本の原則。

### 業界・企業研究

興味を持った業界や属する企業・団体の現状・課題等について、様々なツール・資料を用いて調べ理解すること。自分のやりたい仕事を明確にし、働くことへの熱意を示すための根幹となる作業なので、しっかり取り組もう。

### OB・OG訪問

社会人として活躍されているOB・OGに会い、実際の社風や日常業務など各企業・団体の生きた情報を教えていた

だくこと。サークルやゼミの先輩に直接連絡したり、学内の専用検索システムなどを利用して、会いたいOB・OGを探してみよう。

### エントリーシート

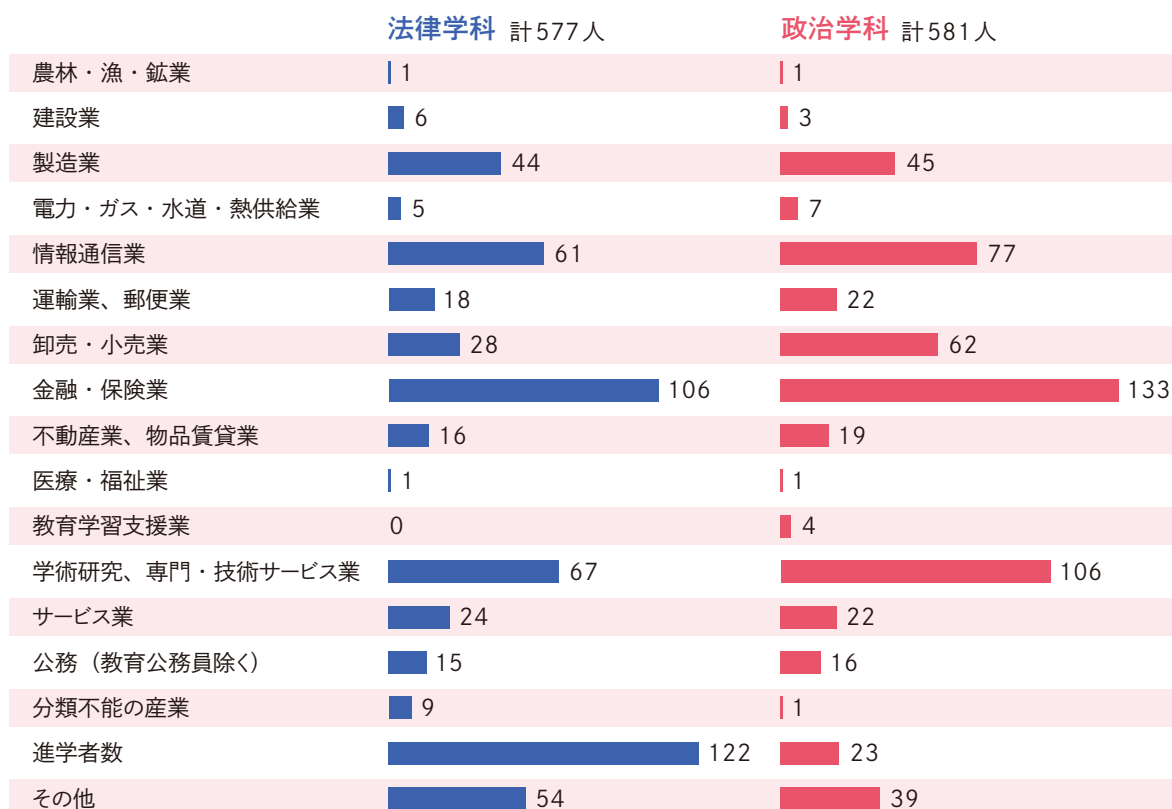
履歴書のほかに企業が独自に作成する応募用フォーマット。設問の意図を的確に把握することが一番のポイント。積み重ねてきた活動のほか、事前に行った企業研究や自己分析に基づいた、意欲と熱意のこもった回答を用意しよう。

### 内定

適性検査、書類選考、面接等の結果によって、企業・団体から応募者に対し採用の意思表示がなされた状態。なかなか決まらない場合は、大学に送付された求人票や大学の個別相談なども利用してみよう。複数の企業から採用内定を受けた場合は、熟考の後、速やかに辞退先に連絡すること。

## 業種別就職及び進学等状況

注：2025年5月1日現在の原則として本人からの進路届に基づく。  
2024年9月の卒業・修了者を含む。  
就職者に進学就職者（進学と就職のどちらにも当てはまる者）を含む。



## 卒業後に活躍している主な分野

### 一般企業

会社は、営業、人事、総務、法務、経理など様々な職種の融合体です。どの職種でも共通して求められるのは理解力、分析力、行動力、コミュニケーション能力といった根本的な力です。法学部では専門科目以外にも多彩な科目を用意しており、そこで得られる幅広い見識や、自ら問いを見つけて解決に導く学びは、どの職種でも生きてきます。

一口に民間企業と言っても様々な業種があり、上図のとおり法学部出身者の就職先業種は多岐に渡っています。

なお、法学・政治学を切り口に様々な社会問題に触れるなかで、メディア業界に興味を抱く学生も毎年多くいます。本学には大学附属研究所の一つとして「メディア・コミュニケーション研究所」が設置されており、入所試験に合格すると通常の授業とは別に専門的な研究を行うことができます。

### 法曹（裁判官、検察官、弁護士）

訴訟、調停、法律相談などの一般民事事件、日本企業の海外進出等をサポートする企業法務など、法律が必要とされる場面は拡大・深化し、質の高い法律家が求められています。

慶應義塾のロースクールは司法試験合格者数上位の実績があり、卒業生は司法機関、行政機関、法律事務所、

企業内、グローバルな領域などでそれぞれ力を発揮しています。

ロースクールに入学するには入試に合格する必要がありますが、法学部の教授陣はロースクールの教授を兼ねる場合もあり、学部生の時からゼミなどで法的な思考を身につけることができます。

### 公務員

変化の激しい社会の中で、公務員も強い変革の力と柔軟な発想力が必要とされています。自ら求めれば精一杯応えてくれる法学部の教育環境で培われる、物事を批判的に考える力、問題点を意識して自身の思考を深め表現する力は官僚としての確かなベースとなることでしょう。

国の政治を支える国家公務員総合職のほか、各省庁でエキスパートとして活躍する国家専門職、身近な行政の担い手である地方自治体職員や、国境に捉われず世界を舞台に課題解決に取り組む国際公務員など、公務員も個々の志望によって様々な選択肢があります。

※慶應義塾大学法学部は、法律学・政治学等の学修を授業以外でも支援する目的で、法学研究所という機関を有しています。所定の手続きを済ませた研修生は、随時開催される講演会・研究会等に参加することができ、法曹や国家公務員等のキャリアを考える一助となっているようです。

# Messages from Graduates



## 好奇心が出発点。最高の仲間と協力すれば、 どんな壁も乗り越えられる

〈法律学科2023年卒〉

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 コンサルタント 塩津 マイルス 廣純 さん  
Myles H. SHIOTSU

私が慶應で得たものは、好奇心を学びに変え、仲間とともに考え抜く力です。入学前から人権や社会の仕組みに関心があり、法を通じて社会を考えたいと思い法学部に進学しました。大学での学びは、知識を覚えることではなく、自分の問いを立て、それを掘り下げていくプロセスそのものだったと思います。

入学後、最初に飛び込んだ日吉寄宿舍では、厳しい上下関係と共同生活に大きな衝撃を受けました。自由な環境で育ってきた私にとって理不尽に感じる場面も多々ありましたが、そこで「組織の文化はどのように生まれ、引き継がれ、変えられるのか」を身をもって学びました。運営や入舎選考に関わる中で、人を見る視点や集団を動かす感覚を養えたことは、大学生活の中でも特に印象に残っています。

課外活動では馬術部に所属し、生き物の世話と競技に本気で向き合いました。早朝からの作業、馬の体調管理、獣医師との連携など、責任の重さを伴う日々は、段取り力や判断力、チームで支え合う姿勢を鍛えてくれました。学業面では国際刑事法のオステンゼミに所属し、国境を越えた普遍的な原則の

実現について考え続け、自分の関心を理論として深めました。

現在はEYの戦略コンサルティング部門で、企業の事業計画策定やM&A支援、買収先の将来性を検証するデューデリジェンスなどに携わっています。業界も課題も異なる案件に向き合う中で、問いを立て、調べ、議論し、限られた時間で結論を導く力が求められます。

大学で培った「考え続ける姿勢」と「仲間と前に進む力」は、今の仕事の確かな土台になっています。



馬術部にて障害飛越競技に出場した際の一枚

# Messages from Graduates



## 制度から社会を変えたい すべての人が安心して生活できる社会を目指して

〈法律学科2020年卒〉

アンダーソン・毛利・友常 法律事務所 外国法共同事業 弁護士 新庄 絢 さん

Aya SHINJO

私は幼い頃から「自分は何者で、社会とどう関わるのか」を考えるのが好きでした。小学6年生から3年間、父の赴任でイランの日本人学校に通い、女の子が服装で区別される社会の中で、「個人としての自分」と「属性で見られる自分」を意識するようになりました。また高校1年ではロータリークラブの交換留学で旧東ドイツの小さな町へ。歴史を当事者として学び、違いは対話でほどいていける、と体感しました。

母が特別支援教育に携わり、私自身も福祉施設でのボランティアを重ねる中で、「障害は社会が生み出す」という視点に出会い、制度から社会を変えたいと思ったのが法学部への進学理由です。1、2年生の頃はドイツ語の集中講義を受けたり、霞会というサークルに所属して外交の古典を読み込み、メディアセンターに通って徹底的に本を読みました。

3年生からは、国際私法が専門の北澤安紀先生のゼミに入りました。国境を越えるトラブルを整理する面白さを知り法曹を志して、学部卒業後はロースクールへ進学しました。

現在は自由度の高い法律事務所で、ファイナンスやM&A

から「ビジネスと人権」「サステナビリティ」まで幅広く経験しています。将来は海外で学び、専門性を磨き、企業に対し「守るべき基準」を示せる立場になりたいと考えています。そしてすべての属性の人が安心して生活できる環境を、次の世代に手渡したいと思っています。迷いながらも、学び続けた時間は必ず力になります。大学は視野を一気に広げてくれる場所です。受験生のみなさんも、ぜひ自分の「問い」を大切にしてください。



北澤ゼミの夏合宿にて。北澤安紀教授（一番左）とゼミ同期と一緒に

# Messages from Graduates



## 対話を重ねることでの相互理解 日米学生会議と実践の学び

〈政治学科2022年卒〉

株式会社Public Shaper Networks 上席コンサルタント 小溝 舞 さん

Mai KOMIZO

私は、18歳で初めて投票に行ったときに「政治は思っていた以上に身近で、自分の生活と直結しているものだ」と感じました。ニュースやドラマで描かれる政治の世界にも関心があり、社会の仕組みを根本から学びたいと考え、慶應義塾大学法学部政治学科に進学しました。

大学生活の中で特に大きな経験は、日米学生会議への参加です。日本とアメリカの学生が約1か月間共同生活を送りながら、安全保障、経済、医療、文化など幅広い社会課題について議論します。私は人口減少や医療をテーマとする分科会に所属し、同じ国の中でも地域や立場によって価値観が大きく異なること、意見が対立する場面でも対話を重ねることでの相互理解が深まることを実感しました。この経験を通して、多様な背景を持つ人々の声を丁寧に聞き、言葉を尽くして伝える姿勢が身につきました。

また、国会議員事務所で秘書業務のインターンとして、外交・安全保障分野を中心に英語での連絡調整や資料対応などを経験しました。永田町の現場で政策が形になっていく過程を間近で見たことは、政治を「学ぶ対象」から「実際に

動かすもの」として捉える転機となりました。

卒業後は外資系コンサルティング会社に入社し、エネルギーやインフラなど幅広い分野の案件に携り、課題を構造的に整理し、実行に移す力を磨きました。その後転職して、現在は永田町で、主にスタートアップ企業を対象に政策提言や社会的理解を広げるためのPR支援に取り組んでいます。

政治学科で培った知識と、多様な価値観に向き合い続けた経験は、今の仕事のひとつひとつに確実につながっています。



東京都庁で開かれた小池都知事・小泉進次郎農相(当時)と女性経営者の意見交換会

# Messages from Graduates



## 世界を見て、考えて、伝える 大学時代に得た原点

〈政治学科2021年卒〉

NHK ディレクター 岡部 真奈 さん

Mana OKABE

私は、決められた枠に沿って学ぶよりも、自分の関心に従って幅広く学べる環境に身を置きたいと考え、慶應義塾大学法学部へ進学しました。

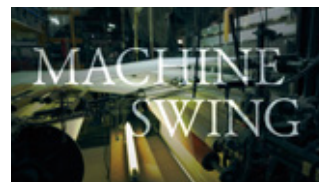
大学では、それまでの延長線上ではなく、新しい世界に触れたいという思いが強く、学業と並行してサークル活動を通じた海外でのフィールドワークに積極的に参加しました。18歳の夏に訪れたインドでの経験は、価値観を大きく揺さぶるもので、以降カンボジアやラオスなど東南アジア各地を巡り、現地で見えた社会や人々の暮らしを、雑誌や途上国の製品販売を通して発信する活動に取り組みました。

大学生活を送る中で、周囲が就職活動へと向かう流れに、次第に違和感を覚えるようになりました。このまま同じレールに乗るのではなく、一度立ち止まり、自分が本当に向き合いたいことが何か考えるために、休学を決断しました。休学中は海外の芸術大学へ留学し、ファッションデザインやPR、編集、表現など基礎的なことを学びながら、現地のファインアート紙でインターンの経験もしました。異なる文化の中で試行錯誤を

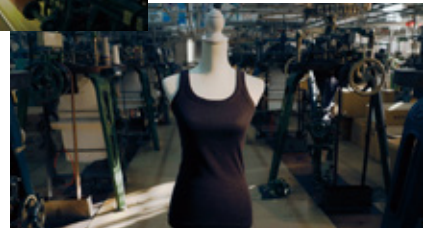
重ねた経験は、物事を多角的に捉え、自分の言葉や表現で伝える力を鍛えてくれました。

帰国後、これらの経験を経て再び大学に戻ったとき、遠回りに思えた時間こそが自分の軸を形づくっていたのだと実感しました。現在は和歌山に拠点を置き、地域の文化や人々の営みをテーマにした番組制作に携わっています。

大学時代に培った好奇心と、寄り道を恐れず挑戦してきたことは、今の仕事においても大きな支えとなっています。



和歌山の繊維産業の番組。  
町工場の営みを、映像美と機械が奏でるビートで描き出した



# 大学院への進学

大学卒業後、法律・政治に関する高度な専門教育を受けようとする場合には大学院法学研究科へ、弁護士などの法曹をめざす場合には法務研究科(ロースクール)へ進学し、さらに学問を深めることができます。法学研究科には、民事法学、公法学、政治学の3つの専攻分野があります。

## 法学研究科への進学

大学院修士課程(2年)は、研究者や高度の専門的知見を要する職業に就くために求められる能力を培うことを目的とした課程です。修了後は就職するか、後期博士課程(3年)に進学し研究を続けるのが一般的です。

修士課程を修了した学生の多くは、一般企業に就職しています。後期博士課程を修了した学生は、大学教員や研究者のほか、各種研究機関の職員や国際公務員になる者もいます。

大学院法学研究科修士課程には一般の大学院課程に加え「専修コース」も設置されています。今日、様々な分野で、より高度な専門的知識を持つ人材が必要とされています。実社会の要請に応えるものとして設置されたものです。

公法学専攻修士課程に設置されている「宇宙法」、政治学専攻修士課程に設置されている「公共政策」と「ジャーナリズム」の専修コースがあります。

大学院に進学するにあたって、通常の入試の他に、推薦入試制度があります。これは本塾法学部第4学年に在学する成績優秀な学生に対して修士課程入学試験の第一次試験を免除するものです。

### 専修コース紹介

#### 宇宙法専修コース

宇宙開発利用は、1957年に始まった比較的新しい活動ですが、市民生活の安全・利便性向上、地球規模課題への取組み、安全保障向上などさまざまな側面において、いまや地球社会運営の不可欠の基盤に成長しています。その結果、宇宙に特有の法律上の課題も浮上しました。そこで、宇宙を対象とする広範な業務に携わることを目指して、宇宙法専修コースでは、ロケットや衛星の地上落下などに起因する第三者賠償、宇宙ゴミ問題、軌道上の衛星に担保権の権利を設定する場合の地上とは異なる問題点、宇宙保険、衛星の輸出管理、宇宙観光問題など宇宙活動についての法律問題を学びます。

先輩のなかには、民間ロケット打上げに携わる人もいます。また、衛星リモートセンシングや衛星通信関係法人に勤務する人もいます。宇宙を対象とするビジネスに広く興味のある人向けのコースです。

#### 公共政策専修コース

公共政策専修コースの目的は、将来、政治家や公務員を目指す人だけでなく、広く公共的な問題の解決に向けて活動しようとする人びとに対して、政治学的な視点から公共政策の見方・考え方を習得してもらうことにあります。したがって実務的な専門能力を重視するいわゆる公共政策大学院とは異なり、政治学というアカデミックな視点から公共政策の修士論文を作成するのが必修となっています。

将来のキャリア形成に役立つだけでなく、どの世界でも通用する人材を育てます。

#### ジャーナリズム専修コース

ジャーナリズム専修コースは、優れたジャーナリストの育成を目的に設置されました。優れたジャーナリストとは、旺盛な好奇心、そして豊富な情報や知識をもち、それらをもとに適切な判断を行い、社会に役立つ情報、すなわち社会の諸問題に関する報道・解説・論評を世に問う人たちを指します。

修士論文を執筆することを通して、ジャーナリズムだけでなく、重要な社会問題についての視点を学ぶこともできます。文章力を磨いたり、メディアの実状を知ることのできる、実践的な科目の履修もできます。

ジャーナリズムやマス・コミュニケーションを専攻するスタッフが、工夫を凝らした熱心な指導を行い、これまで数多くのジャーナリストがこのコースから巣立っていました。

## 2025年 司法試験の法科大学院別 合格者・合格率

合格者 上位5校 (人)	合格率 上位5校 (%)
早稲田 150	京都 58.45
京都 128	慶應義塾 50.00
慶應義塾 118	東京 50.00
東京 116	一橋 47.66
中央 77	早稲田 46.15

※予備試験合格者は除く、  
合格率では受験者数10人未満を除く

## 法務研究科への進学

### 法曹養成専攻 [法科大学院 (ロースクール)]

法科大学院は、法曹（弁護士、検察官、裁判官）に必要な学識及び能力を培うことを目的とした専門職大学院です。修了すると司法試験の受験資格と法務博士（専門職）の専門職学位が取得できます。2023年度からは、一定の要件を満たした場合在学中に司法試験を受験できる制度が始まりました。

慶應義塾大学法科大学院は、理論と実務の架け橋という法科大学院の理念に加えて、国際性、学際性、先端性の3つを教育理念として、21世紀社会を先導する法曹を養成します。具体的には、法学未修者コース1年次で集中的に基礎的な法的素養を身につけ、2年次、3年次で応用的な法的思考力を養成し、各自の専門性に磨きをかけます。

入学定員：220名

[法学未修者コース（3年制）] 約50名

[法学既修者コース（2年制）] 約170名

<https://www.ls.keio.ac.jp>

#### カリキュラム

##### 必修科目

「法律基本科目」と「法律実務基礎科目」から編成される必修科目群は、司法試験において重要視されると考えられ、法曹としても必須の法律知識を養う科目群です。法的な基礎力と応用力を磨くために、独自のオリジナル教材を開発しています。

##### 選択科目

基本的な法律知識を徹底的に身につける必修科目群に加え、多彩な広がりと専門的な深みを兼ね備えた選択科目群です。基礎法学・隣接科目のほか、展開・先端科目として8つの領域（公法系、民事系、刑事系、社会法系、国際系、学際系、外国法基礎系、グローバル系）で多彩な専門科目を展開しています。

##### ワークショップ・プログラム

必修科目群と選択科目群の頂点に位置づけられる「ワークショップ・プログラム（WP）」では、企業法務、金融法務、知的財産法務などの各分野の第一線で活躍する実務家教員と、先端研究を行っている研究者教員の指導のもと、実践的かつ総合的な教育を受けることができます。

#### 法学既修者コース特別選抜入試制度

法曹コース科目を含む所定の法律学科の科目を優秀な成績で単位修得した法学部生について3年で学部を卒業し、法曹養成専攻の法学既修者コースに入学を認める制度です。

#### 進路

修了後は、司法試験、司法修習を経て、主に裁判官・検察官・弁護士等として活躍することになります。

### グローバル法務専攻 (LL.M.)

グローバル法務専攻 (LL.M.コース) は、グローバル・フィールドで活躍するグローバル法曹・グローバル法務専門職を養成するために、英語を使用言語として、原則1年間（パートタイムで1.5年または2年）で学位を取得することができる専門職大学院です。完全セメスター制で、4月入学と9月入学の選択が可能です。

定員30人の少人数教育を徹底し、世界各国から国際的なバックグラウンドを持った学生が集まる環境の中で、すべての授業を英語で実施します。教員も、日本で活躍するアメリカ人弁護士や渉外法務の第一線で活躍する日本人弁護士など実務家教員を中心に構成されています。

#### カリキュラム

カリキュラムは、9つの科目群からなり、日本や諸外国の法制度について習得し、英語で発信する能力を身につけつつ、最先端のグローバル・ビジネス法務やグローバル・セキュリティー法務を学び、かつドラフティング・交渉・仲裁・模擬裁判などの実務トレーニングを受けるというチャレンジングなものとなっています。

#### 留学など

欧米、アジア、オセアニアなどの諸外国との提携を推進し、短期の海外研修や半年の留学制度、ワシントン大学（シアトル）やハノイ法科大学、ホーチミン市経済法科大学等とのダブル・ディグリー制度などを用意し、海外での拠点形成・ネットワーク形成を支援します。

**進路** 渉外法律事務所、グローバル企業法務部、国連等国際機関等で活躍することになります。

### ロースクールのススメ

私は法曹コースを履修して学部を3年で卒業し、ロースクールに進学しました。ロースクール進学を決めた理由は、独学や予備校中心の学習よりも、基礎から積み上げて理解を深める学び方が自分に合っていると感じたからです。ロースクールでは、事例演習を通して法律を「使う」力を養う授業が中心で、現役の裁判官や弁護士など実務家の先生から直接指導を受ける機会も多くあります。知識が現実の問題と結びつく感覚は、ロースクールならではの学びだと感じています。

また、クラス制のため仲間と切磋琢磨しながら学べる環境も魅力です。自主ゼミを組み、議論を重ねる中で、自分一人では気づけなかった視点に出会うことも少なくありません。ロースクールは決して特別な人だけの場所ではなく、「理解しながら前に進みたい人」にとって、とても心強い学びの場だと感じています。



法科大学院2年  
紀伊 智佳子 さん  
Chikako Kii

# 法学部の入試制度

法学部では経験を異にする学生たちが互いに切磋琢磨しあう環境の中でこそ、法律学や政治学の修得がより実り豊かなものになると考えています。

そのため、さまざまな個性を持った学生が集まるよう入試制度の多様化を図っています。

※詳細については、一般選抜要項や各入試の募集要項、慶應義塾大学ウェブサイトの入学案内ページを必ずご確認ください。

## 1 一般選抜

筆記試験の得点で学力をはかろうとする入試制度です。多くの学生がこの方式で入学しています。

## 4 留学生入試

海外の中学校および高校出身の留学生が対象の入試制度です。日本留学試験（EJU）の結果で出願できます。例年、募集要項発表は6月下旬、出願期間は10月中旬～下旬頃です。

## 2 FIT入試

FIT入試は、この学生を「教えてみたい」という法学部教員と、第一志望で慶應義塾大学法学部法律学科・政治学科で「勉強したい」学生との良好な相性（fit）を実現しようとする法学部独自の入試制度です。FIT入試（A方式、B方式）では、主体性、社会性、想像力、コミュニケーション能力など、積極的に社会で活躍し、発信する能力を評価します。

## 5 指定校による推薦入学

指定校からの学校長推薦に基づく推薦入学制度です。学業以外にも優れた実績を持つ、個性豊かな学生を求めています。例年6月頃に、推薦を依頼する高等学校宛に募集要項等を送付しています。詳しくは、高等学校の進路指導の先生に確認してください。出願は11月頃です。

## 3 帰国生・IB入試

海外の高校出身者や、日本国内で国際バカロレア資格（IB Diploma）を取得した者を、法学部の国際化の視点から受け入れようとする入試制度です。例年、募集要項発表は5月下旬、出願期間は7月上旬～中旬頃で、9月入学も可能です。

## 6 塾内進学

慶應義塾では一貫教育によって、多彩な学生を育てています。こうした学生を慶應義塾が設置する五つの高校（高等学校 / 女子高等学校 / 志木高等学校 / ニューヨーク学院 / 湘南藤沢高等部）から受け入れているのが塾内進学です。



# 奨学金制度

慶應義塾大学では、創立者福澤諭吉の「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」の精神のもと、教育の機会均等を図るため、多くの方々のご協力をいただきながら、学生への支援を積極的に行っています。

		<input checked="" type="checkbox"/> 学内 <input type="checkbox"/> 学外	
		給付型	貸与型
入学後	入学前	学問のすゝめ奨学金 国による「高等教育の修学支援新制度」 [高校予約採用]	日本学生支援機構奨学金 [高校予約採用]
	学業支援	慶應義塾大学給費奨学金 指定寄付奨学金(育英型) 慶應義塾維持会奨学金 民間団体・地方公共団体奨学金	民間団体・地方公共団体奨学金 日本学生支援機構奨学金 [在学採用 無利息・有利息]
	海外学習支援	留学のための奨学金(各プログラム) 指定寄付奨学金(留学支援) 慶應義塾大学 創立150年記念奨学金 海外学習支援 文部科学省 トビタテ!留学JAPAN	日本学生支援機構奨学金 [海外 有利息] 日本学生支援機構奨学金 [留学時特別増額 有利息] ※日本学生支援機構貸与型奨学金利用者のみ
	経済支援	慶應義塾大学修学支援奨学金 指定寄付奨学金(経済状況重視型) 国による「高等教育の修学支援新制度」 [在学採用 / 家計急変時の採用]	日本学生支援機構奨学金 [緊急採用 無利息 / 応急採用 有利息]

# 法律学科・政治学科の先生

## 法律学科

### 憲法

教授	石塚 壮太郎	憲法
専任講師	小久保 智淳	憲法 / 神経法学

### 民事法

教授	北澤 安紀	国際私法
	武川 幸嗣	民法
	田高 寛貴	民法
	君嶋 祐子	知的財産法
	坂口 甲	民法
准教授	大塚 智見	民法
専任講師	河野 航平	民法

### 刑事法

教授	太田 達也	刑事司法 / 被害者学 / アジア法
	亀井 源太郎	刑法 / 刑事訴訟法
	オステン, フィリップ	刑法 / 国際刑法 / 司法制度論
	佐藤 拓磨	刑法
准教授	藪中 悠	刑法

### 商法

教授	杉田 貴洋	商法
	柳 明昌	商法
	松元 暢子	商法
	南 健悟	商法

### 民事手続法

教授	大濱 しのぶ	民事訴訟法 / 民事執行法
専任講師	金 美紗	民事訴訟法

### 行政法

教授	青木 淳一	行政法 / 公益事業法
----	-------	-------------

### 租税法

准教授	漆 さき	租税法 / 国際租税法
-----	------	-------------

### 環境法

教授	戸部 真澄	環境法
----	-------	-----

### 社会法

准教授	淵川 和彦	経済法 / 国際経済法
	林 健太郎	労働法 / 社会保障法

### 国際法

准教授	武井 良修	国際法 / 海洋法
	竹内 悠	宇宙法 / 国際法
専任講師	尹 仁河	国際法

### 外国法

教授	前田 美千代	ラテンアメリカ法
	板持 研吾	英米法

### 法哲学

教授	大屋 雄裕	法哲学
----	-------	-----

### 法制史

教授	出口 雄一	日本法制史
准教授	藪本 将典	西洋法制史

### 法社会学

教授	佐伯 昌彦	法社会学
----	-------	------

## 政治学科

### 政治思想

教授	堤林 剣	近代政治思想史
	田上 雅徳	西欧政治思想史
	大久保 健晴	東洋政治思想史 / 比較政治思想史
専任講師	長野 晃	政治哲学 / 政治思想史

### 政治・社会

教授	澤井 敦	現代社会理論 / 社会学史 / 死の社会学
	塩原 良和	社会変動論 / 多文化主義(多文化共生)論
	竹ノ下 弘久	社会階層論 / 社会学
	山腰 修三	マス・コミュニケーション論 / 政治社会学
	鳥谷 昌幸	政治コミュニケーション研究 / メディア社会学
	大林 啓吾	アメリカの司法と政治
	築山 宏樹	政治過程論 / 政治理論基礎
	谷口 尚子	現代政治理論 / 政治意識・行動論 / 政治学方法論
	近藤 春生	財政学 / 経済政策 / 政治経済学
	笠井 賢紀	地域社会論 / 質的社会調査法(生活史法)
准教授	小田 勇樹	行政学 / 公共経営 / 公務員制度

### 日本政治

教授	小川原 正道	日本政治史 / 日本政治思想史
	奥 健太郎	近現代日本政治史
	柏原 宏紀	日本政治史 / 日本行政史 / 日本経済史
准教授	松浦 淳介	現代日本政治論 / 立法過程論

### 地域研究・比較政治

教授	岡山 裕	アメリカ政治・政治史
	杉木 明子	現代アフリカ政治 / 国際関係論
	小嶋 華津子	現代中国政治
	大串 敦	ロシアおよびその他の旧ソ連諸国の政治
	錦田 愛子	現代中東政治 / パレスチナ研究 / 移民・難民研究
准教授	舩方 周一郎	現代ラテン・アメリカ政治、ブラジル研究、環境政治
専任講師	パレット, トーマス	近世・近代中国の政治外交史 / 東アジア国際関係史

### 国際政治

教授	山本 信人	東南アジア地域研究
	細谷 雄一	外交史 / 国際政治学
	宮岡 勲	国際政治理論 / 安全保障研究
	西野 純也	現代韓国朝鮮政治 / 東アジア国際政治
	森 聡	現代国際政治
	井上 正也	日本外交史
	詫摩 佳代	グローバル保健ガバナンス、国際政治学

# 共通科目の先生 (外国語・人文科学・自然科学)

## 共通科目

### 英語

教授	鈴木 透	アメリカ文化研究 / 現代アメリカ論
	奥田 暁代	アメリカ文学 / アメリカ研究
	熊代 敏行	認知言語学 / 日本語学
	篠原 俊吾	言語学
	常山 菜穂子	アメリカ演劇文化研究
	大和田 俊之	アメリカ文学 / ポピュラー音楽研究
	佐藤 元状	イギリス文学 / イギリス映画研究
	ヘンク, ニコラス	古代ローマ史 / 現代中央アメリカ政治
	有光 道生	アメリカ文学 / 比較文学 / 人種理論
	近藤 康裕	イギリス文学 / 文化研究
准教授	大野 真澄	応用言語学
	古賀 裕章	言語学(認知・機能類型論)
	永鳴 友	イギリス文学
	星野 真志	20世紀以降のイギリス文化と社会
	野中 大輔	英語学 / 認知言語学
専任講師	ラーソン, マイケル ウィリアム	アメリカ文学 / 比較文化
	小泉 由美子	アメリカ文学 / アメリカ詩

### ドイツ語

教授	許 光俊	芸術 / 文学
准教授	橋 宏亮	近代ドイツ文学
専任講師	小野 竜史	ドイツ現代史 / 現代ドイツ研究

### フランス語

教授	大出 敦	19世紀フランス文学 (ステファヌ・マラルメ)
	岩下 綾	16世紀フランス文学 (フランソワ・ラブレール)
	檜橋・アンリ ナタリー	日本文学 (大正期・昭和初期の女性作家)
准教授	綾部 麻美	20世紀フランス詩
	村上 由美	19世紀フランス詩

### 中国語

教授	林 秀光	現代中国政治
	磯部 靖	現代中国政治
	島田 美和	中国語 / 地域文化論
専任講師	金牧 功大	現代中国政治

### 朝鮮語

教授	磯崎 敦仁	北朝鮮政治
----	-------	-------

### スペイン語

教授	大久保 教宏	ラテンアメリカ史 / キリスト教史 / 宗教学
	本谷 裕子	ラテンアメリカ研究(メソアメリカ) / 文化人類学 / 民族服飾学
	折井 善果	スペイン文献学 / 比較思想史
准教授	浜田 和範	ラテンアメリカ文学
専任講師	和田 杏子	ラテンアメリカ史 / 司法制度史 / 社会史

### ロシア語

教授	熊野谷 葉子	ロシア民俗学 / ロシア文化
----	--------	----------------

### アラビア語

准教授	大隼 エヴァ	アラビア語 / 言語学
-----	--------	-------------

### 歴史

教授	片山 杜秀	近代日本の思想と文化
----	-------	------------

### 物理学

教授	小林 宏充	プラズマ物理 / 流体力学
	杉本 憲彦	地球物理学 / 気象学 / 地球流体力学
専任講師	稲垣 和寛	流体物理学 / 乱流モデリング
助教	森本 睦子	宇宙工学 / ミッションデザイン / 軌道設計

### 生物学

准教授	小野 裕剛	発生生物学 / 分子遺伝学
専任講師	坪川 達也	分子神経生物学 / 発生生物学
	林 良信	昆虫社会学 / 進化ゲノム学

### 化学

准教授	志村 正	有機金属化学 / 高分子化学 / 電気化学
専任講師	土居 志織	酵素化学 / 応用微生物学

### 心理学

准教授	田谷 修一郎	実験心理学(知覚・認知)
-----	--------	--------------

Keio University



## 個性のススメ 2026

慶應義塾大学 法学部 〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 <https://www.law.keio.ac.jp/> 発行 2026年3月31日